

2021 年度名古屋外国語大学授業評価アンケート結果総括

FD 委員会作業チーム委員長
高 梨 芳 郎

2021 年度の授業評価アンケート調査は、名古屋外国語大学 FD 委員会のもとで、原則として学部、大学院、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）の全授業科目を対象にして実施された。実施期間は、学部は 2021 年 12 月 21 日（火）～2022 年 1 月 17 日（月）、大学院は 2021 年 12 月 17 日（金）～2022 年 1 月 6 日（木）で、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）は 2021 年 12 月 7 日（火）～2021 年 12 月 20 日（月）であった。アンケート調査結果は集計され、各教員に結果が知らされ、評価結果について授業者からのアンケートを記述式で提出していただいた。本報告では、今後の授業改善に資する目的で、受講生による授業評価アンケート結果に、授業者からの回答結果も加えて、授業評価結果を総括するものである。なお、授業評価アンケートの項目内容については、「授業科目別評価結果」を参照いただきたい。

1. 学生への授業改善アンケート調査結果

（1）回答結果の概要

本授業評価アンケートは、受講者総数 35,814 名（学部 35,518 名、大学院 55 名、国際日本語教育インスティテュート 241 名）を対象に Web システムで実施し、回答総数は 11,138 件（学部 11,016 件、大学院 17 件、国際日本語教育インスティテュート 105 件）で、回収率（回答総数÷受講者総数）は 31%（学部 31%、大学院 31%、国際日本語教育インスティテュート 44%）であった。なお、2020 年度の全授業についても Web システムで実施し、回収率（回答総数÷受講者総数）は 50%（学部 50%、大学院 71%、国際日本語教育インスティテュート 18%）であった。

（2）個々の項目ごとの分析結果

①授業満足度について

授業の満足度については、全授業で項目平均値は 4.3（5 点法）（学部 4.3、大学院 4.8、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.6）であった。参考までに、2020 年度の全授業での項目平均値は 4.2（5 点法）（学部 4.2、大学院 4.8、国際日本語教育インスティテュート（留学生別科）4.5）であった。

学部については、外国語学部の学科ごとに見ても、英米語学科 4.3、フランス語学科 4.3、中国語学科 4.2、日本語学科 4.5、世界教養学科 4.5 で、4 以上の高い満足度の数値であった。現代国際学部についても同様に、学科ごとに見ても、現代英語学科 4.4、グローバルビジネス学科 4.4、国際教養学科 4.1 で高い満足度を示す数値であった。世界共生学部世界共生学科も 4.3 で高い満足度であった。また、世界教養学部では、世界教養学科 4.4、国際日本学科 4.3 の高い満足度であった。科目系列等で見ても、ほぼ総て 4.0 以上の平均値で高い満足度であった。

一方、大学院については、全回答者数の約 80%（17 名中 14 名）が 5.0 の回答をして、

項目平均値は 4.8 の数値で、極めて高い満足度が示された。また、国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)については、受講者数 241 名に対して回答数が 105 件であったが、満足度の項目平均値は 4.6 で、「とてもそう思う」(74 件)と「ややそう思う」(19 件)はそれぞれ、約 70%、18%の割合であった。

②出席・受講態度・シラバスの活用について

これらの 3 項目は受講者が自分の出席状況・受講態度、シラバスの活用(登録前・履修中)について評価した結果である。これらの項目についての評価結果は、全授業の項目平均値はそれぞれ順に、4.6、4.5、3.6(いずれも 5 点法)(学部 4.6、4.5、3.6、大学院 4.9、4.8、4.6、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.5、4.8、4.4)であった。参考までに、2020 年度的全授業でのこれらの項目平均値はそれぞれ順に、4.7、4.5、3.5(いずれも 5 点法)(学部 4.7、4.5、3.5、大学院 4.8、4.7、4.3、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.7、4.6、4.4)でおおむね同様の傾向がみられた。また、シラバスの活用は、2020 年度においても、出席や受講態度と比べれば低い回答傾向が見られた。

学部については、外国語学部では、学科ごとに見ると、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.0~4.6、4.0~4.7 の範囲)で、シラバス活用はほぼ総て 3 台(それぞれ 3.2~4.0)であった。現代国際学部の各学科についても、外国語学部と同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ、4.5~4.7、4.4~4.5 の範囲)で、シラバス活用は 3 台(それぞれ、3.5~3.8 の範囲)であった。世界共生学部においても同様で、出席、受講態度は 4 台(4.6、4.5)で、シラバス活用は 3 台(3.5)であった。また、世界教養学部も同様で、出席、受講態度は 4 台(それぞれ 4.4 と 4.6、4.5 と 4.4)で、シラバス活用は 3 台(3.8、3.6)であった。一方、科目系列等で見ても同様で、出席、受講態度はほぼ総て 4 台で、シラバス活用もほぼ総て 3 台であった。

大学院については、それぞれ、4.9、4.8、4.6 の平均値で、シラバス活用についても 4 台の評価であった。国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)についても、同様にそれぞれ、4.5、4.8、4.4 の平均値で、出席、受講態度、シラバス活用とも 4 台の平均値であった。

③授業進度、説明のわかり易さ、授業時間(開始・終了)、熱意、私語への適切な処置、授業参加への配慮、授業レベルの適切性、授業への興味について

これらの 8 項目の評価結果については、項目平均値は全授業で 4.2~4.6 の範囲(学部 4.2~4.6、大学院 4.7~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.4~4.7)であった。これらの中で、平均値が最も高いのは、共通して、教員の熱意(4.6~5.0)で、最も低いのは、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科)を別にすれば、授業レベルの適切性(4.2~4.7)と授業への興味(4.2~4.7)であった。参考までに、2020 年度のこれらの項目平均値は、全授業で 4.1~4.5 の範囲(学部 4.1~4.5、大学院 4.6~5.0、国際日本語教育インスティテュート(留学生別科) 4.1~4.9)であった。

学部についても、同様に、外国語学部の学科ごとに見ると、総て 4 台(各項目平均値の範囲は省略)であった。また、現代国際学部の学科については、3 学科とも総ての項目で 4 台であった。世界共生学部、世界教養学部も同様であった。科目系列等で見ても、4.0 以上の平均値の科目群がほとんどで、ほぼ高い評価結果であった。

大学院については、それぞれ、4.7~5.0 の平均値で、8 項目すべてについて極めて高い評

価結果となっている。国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)についても、4.4～4.7 の平均値で、同様に、8 項目すべてについて高い評価結果となっている。

2. 学生の授業改善アンケート調査結果に対する教員アンケート結果

受講生による授業評価結果について多くの方から記述式の回答をいただいた。ここでは、典型的な回答と判断できる記述内容についてごく一部を紹介する。

(1) 受講生からのアンケート結果の受け止め方

- ・授業に対しての意見を個人的に伺える機会がないので、非常に参考になった。
- ・評価結果から授業で改善すべきところを知ることができたので、今後改善したい。
- ・結果を受けとめ、次年度の授業に活かしたい。
- ・授業で特に力を入れた「平易な説明」「個別フィードバック」を評価してもらえてよかった。

(2) 授業で解決すべき課題

- ・学生主体で授業を進めるために、ペアワーク、ディスカッションを充実させたい。
- ・授業で予習復習の仕方を学期の始めに説明しておくようにしたい。
- ・課題の多さが指摘されるため、課題の頻度・難度を適正化することを検討したい。
- ・データから読み取ったことと意見を文章にさせている。学生の関心や取り組みが良く、文系・理系を問わず IT 知識が求められる中でデータサイエンス等への関心につながる教材に改善していく必要があると感じている。

(3) 授業での工夫

- ・聞く、見る、考える、話すといったアクティビティを（飽きないように）効果的に取り入れている。
- ・パワーポイントを使って授業をして、学生にはキーポイントの言葉を空欄にしたプリントを配り、授業中にそれらを埋めながら、さらに説明を加えて授業を進めている。
- ・一人一人に当てて発音を矯正している。宿題の提出を求め、添削をしている。
- ・ I will continue to interact with my colleagues and discuss solutions with them.
- ・ For the next academic year, I aim to implement more of cultural activities.

(4) FD への意見

- ・毎回、研修内容を授業改善に活用させてもらっています。
- ・「コピペ」問題についての FD が印象に残った。授業をしていて問題を感じることが多いので、その後の議論、取り組みについて、次の機会に教えていただきたい。
- ・ Having it online is a good idea.

3. まとめ

学生による授業評価アンケート結果から、本学の 2021 年度の授業評価は、全体的に回答率の減少がみられたが、大学全体、学部・大学院・国際日本語教育インスティテュート (留学生別科)、科目系列ごとにおいても、従前と同様に概ね良好な結果が得られた。受講生によるアンケート結果に対する先生方の真摯な回答結果に示されているように今後も適切な評価を含めた授業改善の更なる取り組みを全学的に進めていきたいものである。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	英米語学科	担当者	川原功司
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

英米語学科に関連する調査結果は6つに分類されている。分類の内訳と各回答数及び回答率は以下のとおりである。

- 1) 英米語学科における以下2)～6)の授業評価結果の総計（回答数 2,528 名、回答率 30%）
- 2) 専門ゼミナール（回答数 149 名、回答率 29%）
- 3) 専攻言語プログラム／専攻語学（PUT を除く）（回答数 1,120 名、回答率 27%）
- 4) 専門科目・学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕
（回答数 617 名、回答率 32%）
- 5) 学部共通英語基幹プログラム（PUT を除く）（回答数 268 名、回答率 30%）
- 6) PUT（回答数 235 名、回答率 64%）

上記分類から、特に英米語学科科目である2)と3)、および学科科目である専門科目を含む4)を対象として項目ごとの分析をする。

2. 項目ごとの分析結果

◎ 専門ゼミナール

授業満足度の項目 A-①は 4.6 と全体平均 4.3 が高いということを考慮しても高い評価になっている。また、授業内容に関わる項目は全て4点台後半と高い数字を出しているのは評価すべき点である。全体の数値としては理想的とも言えるが、回収率が30%弱であるということを踏まえれば、授業に主体的に取り組む学生がアンケートに答えた結果でしかなく、あまり積極的ではない学生がどういう意見を持っているのかは不明確なままである。

◎ 専攻言語プログラム

全体的にほとんどの項目において、大学全体の平均値と同等の結果となっている。シラバスの活用についての項目以外はすべて 4.2 点以上の平均値を得ている。

教員の熱意を問う項目では 4.6 点と高評価を得ている。この評価から、教員の授業に対する熱心さと語学学習に必要な積極的授業参加の配慮について学生の満足度が見られる。4 年生を除き必修科目である点、および学科の全体数を考慮すると、毎年この平均値を維持しているのは、英米語学科における語学プログラムの成果および、教員の努力が大きく影響していると考えたいが、アンケートの回収率が30%弱であるということを考えると、やはり積極的ではない学生の本音が知りたいところであ

る。

◎ 専門科目／学科提供プログラム、世界教養プログラム〔基盤〕／〔応用〕

全体的には、ほとんどの項目において 4.1 点以上の評価を得ていることから、受講生が概ね好意的な評価をしていることがわかる。ただし、全体平均よりも評価は 0.1 ポイントほど低めである。平均点より下の項目は「B-①この授業には、休まず出席していた。」の回答で、平均点より 0.1 点低かった。こちらも回収率が 30%強ということを考えると、積極的ではない学生の本音は分からないままである。

3. 今後の授業改善に向けて

概して授業評価アンケートの結果が高い本学だが、アンケートの結果だけは本年度も良好であった。しかしながら、アンケートの回収率が過半数に満たないものが多く、今後はアンケートの採り方について考えていかなければならないかもしれない。FD の本義からは外れるが、授業時間ないしは試験時間の一部を使用することも場合によっては考えないといけないかもしれない。

教員コメントによれば、学生からは概ね高評価のコメントが寄せられているようである。ただ、最近の学生は否定的なコメントを誰に対しても言わなくなってきたという傾向があるようなので、言いにくいことが教員に伝わってきていないこともあるかもしれない。

全体的な課題としては、1 年や 2 年でやった内容が定着していない学生が多く、結局、応用的な内容に進めることができないという傾向があるようである。知識の定着は学生の義務だが、これに関しては全学的な取り組みも必要になってくるかもしれない。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	フランス語学科	担当者	武井由紀
------	---------	-----	------

1. 調査結果の概要

フランス語学科の全体的な集計結果については、四学部全体の全授業にかかわる集計結果を示す「全体平均」と比べた場合、「満足度」、「分かりやすさ」、「教員の熱意」、「興味が持てたかどうか」はいずれもフランス語学科の平均値と同値である。このことから、総じて平均的な評価であると分析できるように思われる。2020年度の集計結果でもほぼ同様の結果を示していたことを考慮すると、今回2021年度の結果としては、前年度と比べ、良くも悪くもよりも評価に大きな変化が見られなかったと捉えることができそうである。

一方で、「シラバス活用」は「全体平均」と比べた場合、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.4ポイント下まわっていること、また、「授業の進度の適切さ」については、フランス語学科の全体的な集計結果の方が、大学全体の平均値よりも0.1ポイント下まわっており、「少し早い」や「早すぎる」という回答数の方が大多数を占めていることが確認できる。そのため、学科全体として授業中にシラバスをより活用することや、特に専攻言語の授業において進度に留意することが一つの課題として指摘できそうである。

また、系列ごとに見た場合、「満足度」に注目してみると、「専門ゼミナール」、「専攻言語プログラム」ならびに「PUT、A-PUT」では、いずれも学科平均が全学の「全体平均」を最大で0.2ポイント上回る結果を示しているが、「専門科目群・コース科目」の平均は、全学の「全体平均」よりも0.1ポイント低い数値である。従って、「満足度」については、学科の傾向として、「専門科目群・コース科目」よりも「専門ゼミナール」と「専攻言語プログラム」の方が高い評価を得ていることが指摘できる。

2. 項目ごとの分析結果

「専攻言語プログラム」では、「満足度」、「指定された教科書等を十分に活用した」、「学生が積極的に授業参加できるような配慮」の項目において、いずれも「全体平均」を上回っている。基本的には1年次から初習言語として取り組むフランス語の授業を段階的に履修できるよう学科でプログラムを組んでおり、学科内のチームティーチングや情報共有等の効果が反映されているのではないかと考えられる。ただし、「授業の進度の適切さ」については、フランス語学科の数値が、大学全体の平均値よりも0.2ポイント下まわっており、理由として「少し低い」「低すぎる」の回答者は皆無である一方、「少し早い」や「早すぎる」との回答で占められていることから、習得すべき内容の多さに対し、授業時間数を考慮して進めているものの、学科全体で情報を共有し、工夫する必要があるようだ。

また、「専攻言語プログラム」の一部でもある「PUT」「A-PUT」の結果に着目すると、「開始・終了時間」は「全体平均」を0.4ポイント下回っているが、「満足度」、「興味が持てたかどうか」の質問項目では「全体平均」を0.2ポイント上回っていることから、「PUT」「A-PUT」を含む「専攻言語プログラム」については、総じて学生の評価は悪くないと考えられる。

「専門ゼミナール」では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」、「分かりやすさ」、「教員の熱意」、「積極的に授業に参加できるような配慮」、「興味が持てたかどうか」の項目では、いずれも「全体平均」を上回っており、「満足度」と「興味が持てたかどうか」では「全体平均」より 0.2 ポイント高い評価を得ている。ただし、「開始・終了時間」、「シラバス活用」、「指定された教科書等を十分に活用した」においては、「全体平均」を下回る結果が示され、特に「指定された教科書等を十分に活用した」では 0.4 ポイント「全体平均」より低い数値のため、ゼミで教材を指定する場合は十分に活用できると、学生の満足度もより高まると考えられる。

一方、「専門科目群・コース科目」では、「教員の熱意」の項目のみ「全体平均」と同値を示すに留まり、それ以外の授業内容にかかわる質問項目においてはいずれも「全体平均」を下回る結果が示された。

「満足度」ならびに「興味が持てたかどうか」ではいずれも 0.1 ポイント低く、「授業の進度の適切さ」では 0.2 ポイント「全体平均」を下回っている。この「専門科目群・コース科目」の枠内では、2019 年度の新カリキュラム以降、新設科目が最も多く配置された系列群であり、2 期開講科目に限定されはするものの、この新カリキュラムに対する評価を行っていることになる。学科の全体的な評価が少なからず「全体平均」より低い傾向が認められるため、学生の意向をより詳細に把握することができるような機会を設けて、要因を探ることに努めたいと考えている。

この他、基本的には 1 年生が履修対象である「学部共通英語基幹プログラム」では、「満足度」、「指定された教科書等を十分に活用した」、「授業の進度の適切さ」、「興味が持てたかどうか」の項目で、いずれも「全体平均」を上回っている。特に「指定された教科書等を十分に活用した」では 0.5 ポイント「全体平均」より高い数値を示しており、全体的に高い評価を得ていることが読み取れる。一方で、「複言語プログラム／副専攻語学」では、「満足度」、「授業の進度の適切さ」で 0.1 ポイント、「興味が持てたかどうか」の項目で 0.2 ポイント、いずれも「全体平均」を下回っているが、学生自らの評価に関わる「真剣な態度で受講した」では「全体平均」を 0.1 ポイント下回っているため、引き続き注視していきたい。

3. 今後の授業改善に向けて

2021 年度 2 期の結果を総合的に評価すると、学科の評価としては総じて平均的な評価ではあるものの、1. と 2. で述べたように、系列によって全学の「全体平均」よりも低い評価が示された科目群と、高い評価が示された科目群に分かれた。いずれの評価も確実な要因の断定は難しいが、低い評価が示された「専門科目群・コース科目」については学科内で情報を共有し、今後の改善に向けた建設的な議論に役立てたいと考えている。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	中国語学科	担当者	船越達志
------	-------	-----	------

1. 調査結果の概要

2021年度（2期）回答数は、学科全体で見ると、1年次生（21生）258（昨年248）、2年次生（20生）143（昨年311）、3年次生（19生）96（昨年62）、4年次生以上（18生以前）3（昨年62）、不明0、合計503（昨年683）となっている。回答率は32%（昨年40%、一昨年90%）であった。昨年のアンケート調査分析では、一例年に比して学生回答数が大幅に減少したことを指摘したが、今年度は更に減少した。とりわけ4年次生の回答が極端に少なかった（3名のみ）。二年前までは教室内でアンケート調査を行っていたため回答率が高かったが（一昨年90%）、コロナ流行後の二年間はWeb上での授業評価アンケートとなったため、回答率が必然的に下降したものと考えられる。来年度回答率を上げるためには、教室での回答を再開するほかなさそうである。なお今年度回答率が、昨年よりも更に減少した点については、以下のように考えられよう。即ち、昨年（2020年度）はコロナ流行1年目で全ての学校活動がオンラインで行われた為、WEB上でのアンケートにも多くの学生の注意が向けられた（回答率40%）。それに比して2021年度は、多くの授業で対面授業が再開され、学期末のWeb上でのアンケートには、学生の注意があまり向かなくなった、というのが原因ではないか。なお4年次生の低い回答率については、そもそも4年2期は履修者自体が少ない、ということも一因であると考えられる（多くの学生が4年1期で卒業要件をクリアするため）。

評価結果は各項目とも概ね全学平均と同じ4点台であり、授業満足度は高いと言えよう。

2. 項目ごとの分析結果

主な質問項目について、授業科目群別の調査結果を以下に示す（括弧内の数字は昨年2020年度の数字）：

	A①満足度	C②分かり易さ	C④熱意	C⑥授業参加	D①レベル	D②興味
専攻言語・専攻語学	4.7(4.2)	4.4(4.2)	4.7(4.5)	4.3(4.2)	4.3(4.1)	4.4(4.2)
PUT（中国語PUT）	4.6(4.7)	4.6(4.7)	4.6(4.7)	4.7(4.8)	4.5(4.5)	4.7(4.7)

専門科目群・コース科目(世界教養プログラム基盤含む)	4.1(4.3)	4.1(4.4)	4.3(4.7)	3.8(4.3)	4.2(4.2)	4.2(4.3)
ゼミ	4.5(4.6)	4.6(4.6)	4.9(4.7)	4.4(4.6)	4.2(4.6)	4.3(4.7)
1年英語	4.1(4.3)	4.3(4.1)	4.6(4.4)	4.2(4.6)	3.9(4.0)	4.0(4.2)
2年英語	4.1(4.2)	4.2(4.5)	4.4(4.6)	4.3(4.2)	3.9(3.9)	3.8(3.9)
全体平均	4.2(4.3)	4.3(4.3)	4.5(4.5)	4.2(4.2)	4.1(4.1)	4.1(4.2)

上の表に基づき、以下、カテゴリーごとに分析をしていく。

まず、「専攻言語プログラム(専攻語学)」であるが、回答数は1年(21生)93(昨年94)、2年(20生)49(昨年130)、3年(19生)32(昨年19)、4年以上(18生以前)0(昨年12)となっている。回答率(回収率)は28%(昨年39%)にとどまり、全体の状況を把握するのは難しい。とりわけ3・4年は回答数が低く、4年生にいたっては回答者0である。

昨年度と比較すると、いずれの項目においても上昇した。特に「全体として満足であった(A-①)」が0.5ポイントも上昇し、4.7に達したのは顕著である。これは対面授業復活に対する学生側の肯定的な反応を示していると考えられよう。2020年度は、急激なコロナウイルス流行によりほぼ丸一年間遠隔授業(オンラインが中心)となり、学生にとってはストレスの貯まる一年であった。それに対して2021年度は、1期はオンラインと対面の併用(ハイフレックス)、2期はほぼ対面授業の形式に戻った。学生満足度の著しい上昇は、これに対する評価と考えられよう。とはいえ、もちろん理由はそれだけではなく、担当教員の授業運営が適切なものであったとも考えられる。教員の熱意(C-④)は学生の満足度同様、4.7に達しているが、これは教員の側も久しぶりの対面授業に張りきって臨んでいたことを示している。学生側、教員側双方の対面授業再開に対する姿勢が、満足度の高得点につながったのであろう。

次に「PUT」について見ていく。回答数は、2年生(20生)10名、3年生(19生)9名、4年以上(18生以前)1名の合計20名に過ぎなかった。今年度はなぜかPUTの回答数が、他の項目と比べて、とりわけ低くなってしまった。理由は不明である。回答数は低くなったが、現れた数値はほぼ例年通りであった。本学科の中国語PUTは、「楽しく会話する」を第一の目標としているため、学生に仲の良い四人グループを作らせ、そこに教員1名を配置している。そのため、毎年学生の満足度が高く、評判もよい。今年度も例年同様、各項目で高い数値が出た。「この授業に興味を持てた(D-②)」は4.7に達し、「満足度(A-①)」も4.6に達した。

次に「専門科目群/コース科目/世界教養プログラム」であるが、こちらでもまず回答数から見ると、1年生(21生)64名、2年生(20生)23名、3年生(19生)13名となっている。1年生の回答が6割以上を占めており、表中の数値は主に1年生の状態を反映していると見るべきである。しかし中国語学科の専門科目群は、学科基盤科目を除きすべて2年次

以降、特に 34 年次に多く配置されている。また、これらの数値には、中国語学科以外の科目（世界教養プログラム）の評価結果も加算されている。このように見ると、「中国語学科の専門科目群（「中国語・中国文化系」・「中国ビジネス系」の科目群）」のみに対する純粋な評価結果は、今回の数値では窺うことが難しいように思われる。数値はほぼ 4.0 前後であるが、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた（C-⑥）」の項目は 3.8 となった。3 点台であるが、「中国語学科の専門科目群」のみを対象とした場合、どのような数値になるか知りたいところである。

「ゼミ」の回答数は、3 年生（19 生）22 名、4 年生（18 生）2 名、その他 2 名の計 26 名である（回答率 20%）。したがってこの項目についても、学科全体像の把握はやはり難しいと言わざるを得ない。表の数字を見ると、いずれの項目も高い数値が出ている。特に「教員の熱意（C-④）」は 4.9 に達した（昨年は 4.7）。ほぼ満点である。ゼミは教員の専門分野であるため、熱が入るようである。学生もそれを好意的に受け止めていると言えよう。一方、「授業のレベルは自分にとって適切であった（D-①）」は、昨年より 0.4 下降し、4.2 となった。決して低い数値ではないが、教員側が自分のペースで高いレベルの授業をしてしまう場合もあるのかもしれない。

「英語」科目に関しては、中国語学科では分析のしようがないので、ここでは述べない。

3. 今後の授業改善に向けて

今回も昨年に引き続き WEB 上での調査であった為か、回答率が低く、全体像が把握できなかった。そのため上述の分析も曖昧なままになっている。まずは教室での回答を再開して回答率を上げるよう配慮すべきであろう。

2021 年度は対面を再開する授業も増え、2020 年度の全面遠隔授業（オンライン）の状況よりはだいぶ改善した。しかし対面を再開した授業においても、いまだ学生にマスク着用を義務付けている。外国語（中国語）の学習においては、発音練習が極めて重要であり、学生の口の形などを注視しながら指導する必要がある。マスクを着用したままでは指導に限界がある。まずは一日も早くコロナウイルスの流行が収束し、本来の対面授業（マスクなしの対面授業）が再開できるよう希望するものである。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	グローバルビジネス学科	担当者	磯村昌彦・原慎之介
------	-------------	-----	-----------

1. 調査結果の概要

グローバルビジネス学科において、総合的には全体平均とほぼ同様の傾向を示していた。若干の差が見られる点として、D-4「この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味をもつことができた。」の回答結果が、全学平均よりも低い値となっていた。これは本学科の科目特性が影響するものとする。

2. 項目ごとの分析結果

専門基礎科目を対象としたアンケートについては、全項目において全体平均以上の値となっていた。また、PuT を対象としたアンケートは多くの項目で学部平均を大きく上回っており、参加意欲、理解度、満足度の高さがうかがえる。

一方で Business in English などの科目を対象としたアンケートについては、予習復習や教科書の活用などの項目で平均を大きく下回っていた。

3. 今後の授業改善に向けて

先生方には、学生に迎合することなく講義内容を理解させる努力をしていただいている。本アンケート結果を共有し、学科としてより良い講義の実施に努めたい。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	現代英語学科	担当者	吉見かおる
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

現代英語学科のアンケート結果を集約すると、昨年と同様、ほぼすべての科目群において全体平均を上回る数値を表わしており、このことから学生の授業に対する満足度は2021年度も全体として高い傾向にあると評価できる。その一方で、学生の科目別における学習意欲の差も読み取ることができる。それは、コミュニケーションとしての英語習得に対して非常に高いモチベーションがあるのに対し、英語を専門分野とする上で必須となる特に専門基礎科目（「ことばと音声Ⅰ、Ⅱ」、「ことばとしくみⅠ、Ⅱ」、「ことばと文化Ⅰ、Ⅱ」）の習得となると、2021年度も低い数値を示す傾向にあった。英語を使用する環境に高い関心を示す学生に対し、専門分野であるアカデミックな学習がいかに重要であるかを学生自らが発見できるような授業展開、またあらゆる場面での動機付けの提供が、今後も学科の課題となる。

2. 項目ごとの分析結果

2021年度の本学科の特徴を示す分析結果を挙げてみる。

1) 科目系列：Lecture in English（回収率：48%）

・本学科特有の英語による受講科目である。授業満足度は4.5、出席率4.7と非常に高い数値を示している一方で、「授業に関する予習、復習の積極性」に対して3.6、また「授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」かに関しては3.7と全体平均を大きく下回る数値となった。英語コミュニケーションを重視したPUTとは異なるため、他の科目群と同様、本科目の予習、復習の重要性を学生たちにリマインドする必要がある。

2) 科目系列：専門基礎科目（回収率：21%）

・本学科の専門性を養う「ことばと音声Ⅰ、Ⅱ」、「ことばとしくみⅠ、Ⅱ」、「ことばと文化Ⅰ、Ⅱ」である。必須科目であるため授業出席率は4.8であるが、授業満足度は3.8と低い。「授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」かに関しては4.1、「授業に関する予習、復習の積極性」は3.5と低い数値となった。回収率が低いため一般化できるわけではないが、本科目群の低数値を示す結果は例年とほぼ変わらない。

3) 科目系列：アカデミックスキルズプログラム（回収率：79%）

・ほぼすべての質問項目において高い数値を示した科目群は「アカデミックスキルズプログラム（全学基幹科目）」であった（全体の満足度：4.7、出席率：4.8、予習復習：4.0、教科書・参考書の活用：4.4、教員の熱意：4.8）。回収率も79%と非常に高いため、学生たちの満足度は確かなものと言えよう。

3. 今後の授業改善に向けて

現代英語学科は2022年1期からアカデミックスキルズプログラムを専任教員が担当するようになった（それまでは非常勤教員が担当）。この一年生科目の高い満足度を受け、今後も学生のモチベーションが下がらないような学科による積極的な取り組みが必要となる。その中で、一年生のうちからバランスの取れた英語学習と専門基礎科目の学習の在り方を学生たちに周知することで、今後の学生の学習意欲の改善につながるかもしれない。来年のアンケート結果の改善を期待する。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際教養学科	担当者	根無一信
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

調査結果を見ると、国際教養学科の学生の多くは授業を高く評価しており、全学的な評価と同じような傾向を示しているといえる。特筆すべきは出席に関してである。ほぼ全ての系列において全学の平均以上の数値を示しており、国際教養学科の学生の勤勉さが伺われる。大変好ましい結果であると判断することができる。

2. 項目ごとの分析結果

ここでは興味深い結果が出ているアカデミックスキルズについて取り上げたい。この科目では「この授業に休まず出席していた」と「この授業には真剣な態度で受講した」という二項目で4.9と4.7という非常に高い数値を記録している。国際教養学科で学んでいく上で少なくともこの科目が最も重要な科目の一つであるという1年生の意識が反映されていると見ることができるだろう。要するに学生はこの科目を「さぼってはいけない」「手を抜いてはいけない」科目として認識しているといえる。学生の発表に対する遠慮のない批判的な意見が教員からだけでなくクラス生からも出るのが国際教養学科のこの科目の特徴でもある。それゆえ、「この授業は全体として満足であった」という項目では3.8という平均値以下の数値を示しているのは、むしろ学生がきびしく鍛えられている真つ只中にいて、脱皮のための苦しい思いを反映したものであると考えることができる。難しい課題を与えられてもがいているのが1年生なのである。しかし、2年生以上になると、例えば国際教養学科目群では「この授業は全体として満足であった」「授業の進み具合は適切であった」「授業のレベルは自分にとって適切であった」という項目でいずれも平均以上の高い数値を記録しており、1年生の時のきびしい経験がその後の成長を支えていると分析することができるだろう。

3. 今後の授業改善に向けて

シラバスの利用度については全学的に低い、国際教養学科でも全体的に低く、平均以下である系列も多い。興味深いのは、シラバス利用度の項目で低評価の科目はすべて満足度も平均以下であるという点である。これは七系列中五系列で該当している。逆にシラバス利用度で高評価の系列は満足度も高い。シラバス利用度が低くても授業満足度が高いのはPUT だけであり、それ以外の六系列ではシラバス利用度と授業満足度が同じ傾向を示している。この二つにもし相関性があるのであれば、それは授業改善のための大きな示唆になり得るだろう。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	世界共生学科	担当者	宮川、西村
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

昨年と同様、世界共生学科全体の質問回答集計表から、どの質問項目についても、大半の学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。全学の平均と比較した場合にも、平均値について特に大きな差異はないことがわかる。B-③「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」という項目については、「普通」と回答した人の割合が高いことから、シラバスの活用の仕方が学生および教員の間で共有されていないということがうかがえるが、必須などあらかじめ履修登録されている科目については、「登録前」の利用は期待できないことから「あまりそうは思わない」「そうは思わない」が多い可能性も考えられる。気になったのは、B-4「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、B-5「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した」、B-6「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。・聞く・話す・読む・書く」の未答数が非常に多いことである。未答数の割合が多いのは、授業内容と質問がしっかりと合致していない可能性も考えられる。

2. 項目ごとの分析結果

① 英語基幹プログラム

どの質問項目についてもほとんどの学生が「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」を選択している。C-②「教員はわかりやすく説明していた」、C-③「授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた」、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」については「とてもそう思う」を選択した学生が多いことから、教員の指導に対する学生の評価が非常に高いといえる。他方、この授業でも、B-④およびB-⑤での未答数が1割から2割程度に達している。B-④については「課題」には取り組んでいるけれども「予習・復習」と捉えていない可能性も想定できるがよくわからない。アンケート回収率は35%である。

② PUT

A-①「この授業は、全体として満足であった」、B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。また、教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価が全体の平均値と比べても非常に高いといえる。

③ 専攻言語プログラム

B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」という項目では、全学平均と比較しても高

い数値である。B-⑥「この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった」といった項目では、「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」の選択数が多いことから、学生が授業の内容に興味を持ち、真剣に授業に取り組んだことがうかがえる。教員の説明、授業の開始・終了時間、教員の授業への熱意、私語への適切な処置、学生の授業への積極的参加など、授業内容および教員の努力に対する学生の評価は、全学平均と比較すると高いことがうかがえる。

他方、この授業でも、B-④、B-⑤、B-⑥、D-③、D-④での未答数が少なからずある。B-④については「課題」には取り組んでいるけれども「予習・復習」と捉えていない可能性がある。D-④については、複言語やエリアランゲージとの関係性が想定できずに未答という可能性も考えられる。そもそも質問の意図が学生に伝わっているのか、検討が必要かもしれない。

アンケート回収率は32%である。

④アカデミックスキルズプログラム

D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」という項目については、「とてもそう思う」「ややそう思う」が69%と大半を占め、「普通」「あまりそう思わない」が33%、「そうは思わない」は0名であった。「あまりそう思わない」を選択した学生たちの内訳を見てみると、レベルが「高すぎる」が1名、「少し高い」が3名であった。授業内容が少々難しいと感じる学生がいることがうかがえるものの、全体としてはかなりの少数(0.06%)にとどまっている。教員の授業態度については、C-④「教員は授業に熱意をもって取り組んでいた」の項目に「とてもそう思う」を選択した学生が80%を占めることから、教員の指導についての学生の評価が高いことがうかがえる。なお、C-②「教員はわかりやすく説明していた」については、「とてもそう思う」「ややそう思う」が86%を占めるものの、「あまりそうは思わない」と回答した学生が4名おり、授業レベルが「高すぎる」「少し高い」との上記の回答と連動しているかもしれない。

B-①「この授業には、休まずに出席していた」、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」といった項目についても、「とてもそう思う」「ややそう思う」が大半を占め、学生がこの授業を重要だと考え、授業の予習・復習に取り組んだと解釈することができる。A-①「全体として満足であった」については、「とてもそう思う」「ややそう思う」が大半を占めた(72%)。「普通」は26%、「あまりそう思わない」は0.5%であった。

アンケート回収率は87%である。

⑤リージョナルスタディーズ

A-①「この授業は、全体として満足であった」、C-②「教員はわかり易く説明していた」、C-①「授業の進み具合は適切であった」といった項目について、学科平均は全体平均値よりも高く、授業内容及び教員の努力に対する学生の評価が高いことが伺える。C-④「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」、D-①「授業のレベルは、自分にとって適切であった」についても、全体平均値に等しい学科平均が得られている。また、D-②「この授業に大変興味を持てた」においては、全体平均値よりも高い評価が得られている。本学科のリージョナルスタディーズは、コース科目と並ぶ重要な位置づけとなっているが、これらの点を見る限り、学生たちの関心がきちんと向くような授業となっているとの評価が得られているとみなすことができよう。一方、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」の項目については、学科平均は全体平均を下回るため(回答別に見ると「とてもそう思う」「ややそう思う」が62%、「普通」「あまりそう思わない」「そうは思わない」が27%)、この点には改善の余地が見られる。

アンケートの回収率は58%である。

⑥コース科目／グローバルメディア科目

A-①「この授業は、全体として満足であった」、D-②「この授業に大変興味を持てた」の項目で、全体平均値に等しい学科平均が得られている。一方、B-②「この授業には、真剣な態度で受講した」、C-②「教員はわかり易く説明していた」、C-⑥「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」については、学科平均は全体平均値を0.1～0.2ポイント下回る。授業の進度とレベルについて（C-①、D-①）、それぞれ、「早すぎる・少し早い」（5名）、「高すぎる・少し高い」（9名）とした学生が一定数いる。本学科のこの科目群の授業は講義形式の授業がほとんどで、授業内容の専門性も高いために「難しい」という感想を持ちやすいことが、このような評価の理由であると考えられる。

また、B-④「この授業に関して予習、復習などを積極的に行った」、B-⑤「この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用とした」については、学科平均が全体平均値よりも明らかに低い（0.5～0.6ポイント差）。改善点としては、教員から予習・復習などの内容を充実させ、課題に対するフィードバックやディスカッションの機会を増やし、学生が授業の中で積極的に発言できる仕組みを作ることが挙げられる。

アンケートの回収率は26%である。

3. 今後の授業改善に向けて

特にコース科目／グローバルメディア科目について、この科目群の授業のほとんどが講義形式で行われているものの、今後は学生が予習復習を通して、積極的に授業に関心を持てる工夫をするとともに、授業内でも学生が参加できるような仕組みを取り入れていくことも必要と考えられる。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	世界教養学科	担当者	松山洋平
------	--------	-----	------

1. 調査結果の概要

いずれの系列の科目も、「とてもそう思う」と「ややそう思う」を選択した学生の割合が多く、授業に対する満足度が全体的に高いことがうかがえる。

複数の系列間、あるいは、学科と全体平均との間に有意な数値差は認められない（ほとんどの項目において全学平均数値よりも高い数値が出ている）。アンケートからは、学科独自の大きな問題点は見いだせず、それぞれの系列で満足度の高い授業が提供されていると言える。

2. 項目ごとの分析結果

● 英語科目全般への高い満足度

学科専門科目、全学科目ともに、英語科目への満足度は高く、学生も主体的に学んでいることがわかる。ほとんどの質問項目において学科の数値は全体平均の数値を上回っている。

● 教養科目全般への相対的に低い関心

学部の専門科目（「世界教養ブリッジ科目＋コース科目＋日本語教育プログラム」）については、英語科目に比べて満足度が低く、全体平均値を下回っている項目も少なくない。しかし、質問別の回答人数を見ると、否定的な回答を行っている人数は一名のみであり、さほど問題視することではない。ただ、英語科目と比較したときに、教養科目への関心が低いことは確かである。

● 専門ゼミナールへの高い満足度

学科の専門ゼミナールへの満足度は高い。ほとんどの質問項目において、全体平均を上回る数値が出ている。

● 出席率が低い可能性

「この授業には、休まず出席していた」との質問項目の数値が全体平均値より低い。ただし、どの程度の出席率であれば「休まず出席していた」ことになるのかは回答者個々人の判断に委ねられているため、実際に他学科の学生よりも出席率が低いのかどうかはわからない。

3. 今後の授業改善に向けて

- 英語科目に比べて教養科目への関心が低いため、授業外の「教養セミナー」などを引き続き活用し、英語学習以外の分野への関心を醸成したい。
- 「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」との質問項目の数値が他の質問項目の数値に比べて著しく低い。しかし、本学の現行のシステムでは、履修中の「活用」に堪えるような詳細なシラバスをそもそも作成できない（大学の授業でシラバスを「活用」する方法については、芦田宏直『シラバス論』（晶文社）が参考になる）。この項目の改善を目指すのであれば、全学的な対応が必要であろう。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本学科	担当者	中北美千子
------	--------	-----	-------

1. 調査結果の概要

アンケートは2021年12月から2022年1月にかけて全学の学生を対象にポータル上で実施された。世界教養学部国際日本学科全体の受講者数は1,468名、うち561名が回答し、回答率は38%であった。

2. 項目ごとの分析結果

本アンケートの主な質問項目を、①国際日本学科生の授業への満足度、評価等と、②学習態度に関する評価等に分けて以下に分析する。

① 国際日本学科生の授業の満足度、評価の平均

国際日本学科全体の集計では、ほとんどの質問項目において、全学平均とほぼ同様の結果となった(表1参照)。全科目の学科平均および科目群ごとの学科平均を全学平均と比較して数値が高0.2以上高かったものをグレーのハイライト、低かったものを下線で示してある。

表1 国際日本学科生の授業評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	A①全体として満足であった	C②教員はわかりやすく説明していた	C④教員は熱意を持って取り組んでいた	C⑤授業中の私語には適切な処置が執られていた	C⑥学生が積極的に授業参加できるよう配慮されていた	D①レベルは自分にとって適切であった	D②大変興味を持てた
全学平均	4.3	4.3	4.6	4.2	4.3	4.2	4.2
学科全体	4.3	4.3	4.6	<u>4.0</u>	4.3	4.1	4.1
英語基幹プログラム [PUT 以外]	4.3	4.4	4.7	4.4	4.4	<u>4.0</u>	<u>4.0</u>
英語基幹プログラム [PUT]	4.8	4.5	4.6	4.4	4.8	4.2	4.6
世界教養ブリッジ 科目・コース科目・日本語教育プログラム	<u>4.1</u>	4.2	4.6	<u>3.9</u>	4.3	4.1	4.1
専攻語学プログラム	<u>4.1</u>	4.6	4.8	<u>4.0</u>	<u>4.1</u>	4.4	4.5
複言語プログラム	4.5	4.5	4.7	<u>4.0</u>	4.6	4.2	4.3

学科全体の平均が全学平均よりもやや目立って下回る項目は「C⑤授業中の私語には適切な処置が執られていた」で、全学平均4.2に対して4.0である。これを科目群ごとに見ると、「英語基幹科目」ではPUTもPUT以外も4.4と全学平均を上回っている一方で、「世界教養ブリッジ科目・コース科目・日本語教育プログラム」は3.9、「複言語プログラム」と「専攻言語プログラム」は4.0である。

私語をめぐるこの結果には、授業運営についての学科の特性がある程度反映されている可能性がある。英語基幹科目と複言語科目の授業の実態がわからないため比較し辛いですが、専攻言語科目、コース科目、日本語教育プログラム科目に関しては、授業中のいわゆる「私語」を必ずしも排除しようとしていない場合がある。国際日本学科では定員が少ないため学年全員が一度に受講する必修科目でも60名程度で、多くの科目は少人数である。学科科目として典型的な授業は、講義科目であっても、教員が一方的に話して学生がおとなしく聞くという時間は限られており、グループワークがふんだんに盛り込まれている。各自がワークシートに取り組む際も、「まわりの人とも話しながら考えてみてください」のような、気付きの積極的な共有による学びのコミュニティの形成を誘導する声かけが行われる傾向がある。

このような環境で、学び合いのための会話と「私語」との境は曖昧である。相談しながら課題に取り組んでいたり多少脱線して他の話になっていたりしても、聞いてほしい場面では静かになるため、授業担当者の実感としては、授業運営上私語を取り締まる必要に迫られる場面というのは基本的にない。学科教員同士の情報交換でも私語で困っているという話題が出ることはない。

ただし学生の中にはこのような授業運営の傾向を「教員が私語を注意しない」と捉え不満に思っている者が一定数いることがアンケート結果から見て取れる。教員と学生の間での授業観の擦り合わせの努力が求められる。

科目群ごとの集計結果で目立つのは、PUT に対する満足度の高さである。PUT は1年次必修科目であり、今回のアンケートの回答者は1年生41名と2年生1名だが、A①「この授業は、全体として満足であった」の学科平均は4.8と高い。回答数の内訳は「5 とてもそう思う」35、「4 ややそう思う」6、「3 普通」0、「2 あまりそう思わない」1、「1 そうは思わない」0で、2と回答した1名の存在が際立っている。D②「この授業に大変興味を持てた」の学科平均は4.6で、内訳は「5 とてもそう思う」32、「4 ややそう思う」6、「3 普通」3、「2 あまりそう思わない」0、「1 そうは思わない」1である。ここでも「1 そうは思わない」と回答した1名の存在が際立っている。D②はA①よりも若干低い評価に偏っているが、これは質問自体が「『大変』興味を持てた」という偏りを含んだものだった影響が考えられる。

A①で低い評価を付けた1名とD②で低い評価を付けた1名、そして再履修の2年生1名との関係は集計結果からは確認できないが、満足度の高い学生達の中で取り残されてしまった学生がいた可能性が考えられる。

② 学習態度に関する評価等

学習態度に関するアンケート項目でも、学科平均は全学平均とほぼ同様の結果である（表2参照）。全科目の学科平均および科目群ごとの学科平均を全学平均と比較して数値が0.2以上高かったものをグレーのハイライト、低かったものを下線で示してある。

表2 国際日本学科生の学習態度評価の平均

[5 そう思う, 4 ややそう思う, 3 普通, 2 あまりそう思わない, 1 そうは思わない]

	B①休まず出席していた	B②真剣な態度で受講した	B③シラバスを活用した	B④予習・復習などを積極的に行なった
全学平均	4.6	4.5	3.6	4.0
学科全体	4.6	4.4	3.6	4.0

英語基幹プログラム [PUT 以外]	4.7	4.4	3.5	4.4
英語基幹プログラム [PUT]	4.7	4.8	3.3	4.5
世界教養ブリッジ科目・コース科目・ 日本語教育プログラム	4.6	4.3	3.7	3.9
専攻語学プログラム	4.6	4.3	3.6	3.8
複言語プログラム	4.5	4.4	3.5	4.0

科目群ごとに見ると、「英語基幹科目」(PUT および PUT 以外) への取り組みの熱心さ (グレーのハイライト) と、それ以外の科目群で全学平均を下回る傾向とが対照をなしている。

この差は、英語基幹科目が 1 年次必修科目であり、特に PUT については①の授業評価項目で見たように満足度が高いこともあり意欲的に取り組んだのに対し、上級生科目ではその意欲と緊張感がやや落ち着いてしまったということである可能性が考えられる。ただし、全学平均を下回ると言ってもその差は -0.1 から -0.3 の範囲であり、意味のある差とは言えない可能性もある。

国際日本学科では、欠席回数が 3 回を超えたあたりで一人一人について学科会議で確認して、まずクラスアドバイザーが、次に学科長が個人面談をする態勢を取っている。度重なる働きかけにもかかわらずまったく反応しない学生や、特段の理由を訴えることなく断続的に欠席を重ねてしまう学生が各学年数名ずつはいるものの、大多数の学生は 1 度も欠席せず、他学科と比べて負担が重いと言われる課題もきちんと期日までに提出する学習態度を維持している。学科教員の共通認識は「国際日本学科の学生はまじめ」というものである。

にもかかわらずアンケートの結果からは学生達が自己の学習態度を必ずしも高く評価していない様子が伺える。学科教員の目に映る勤勉さの裏で実は学習内容にあまり興味が持てず学習態度も熱意に欠けてしまったという憂慮すべき事態なのか、自分自身を批判的に見る力と「もっとできるはず」という向上心の反映なのか、注意して観察する必要がある。

3. 今後の授業改善に向けて

上述の通り、学科教員間には、国際日本学科の学生達は真面目で熱心だという共通認識があり、勤勉な学習態度を前提として授業がデザインされている。グループ活動の時間がただのお喋りの時間として消費されてしまう心配は必要なく、誰と誰を同じグループにしてもそれなりにうまく協力し合うことができ、授業中の課題でも宿題でもきちんと取り組んで期日までに提出するのが当然と考えて概ね差し支えないという、学生達への信頼感がある。

ただし、受験者数と入学難易度の推移などに応じて学生の基礎学力と学習態度は年ごとに変化するものである。特別な配慮を要する学生の存在も増えつつある。さらに、名駅キャンパスとの移動ができない学生がオンライン受講となるため教室活動が制約を受ける事態も発生している。授業方法も常にアップデートの必要に迫られているという緊張感をもって、授業改善アンケートや学習状況アンケートの結果を注視する必要があるだろう。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科分析結果

組織名称	CLED	担当者	古村由美子
------	------	-----	-------

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 CE、LC、TTI

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2020年度は4.2であったが、当該2021年度は4.5だったので、前年度よりも評価が高まった。

全体平均を下回った項目は1項目、B-②であり、上回った3項目はB-4、C-①-1、C-⑥であった。この3項目を除く9項目は、全体平均と同値であった。4学部全体を通しての総合的な評価としては良好と言える。学科別、科目別の結果については後述する。

気になる点は、回答率の低さ(38%)である。昨年度の回答率は59%であったが、約20%下がっている。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

B-②(4.4 < 4.5:全体平均)は全体平均より0.1低いとはいえ平均値自体は良い結果を示している。項目内容は「この授業には、真剣な態度で受講した」であった。

全体平均より高かった項目は、B-4(4.1 > 4.0:全体平均)、C-①-1(4.4 > 4.3:全体平均)、C-⑥(4.4 > 4.3:全体平均)の3項目であった。これらは順に、「予習・復習を積極的に行った」、「授業の進み具合は適切であった」、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」という項目であった。教員が学生の授業参加を促すために配慮したことによって、学生の学習態度に積極的になったと考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

C-①-2は、C-①-1「授業の進み具合は適切であった」の問に対して、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由であり、「早すぎる」(6名)、「少し早い」(17名)、「少し遅い」(18名)、「遅すぎる」(4名)という結果を示している(計45名)。本集計は4学部全体の回答数(1,131名)から出てきた数字であるため、それほど大きな数字ではないかもしれないが、今後進捗に関しては、学生の学習の状況を見ながら教員が調整することが必要かと思われる。

D-①-2は、D-①-1「授業のレベルは、自分にとって適切であった」の問に対して、「そうは思わない」「あまりそう思わない」と回答した理由であり、「高すぎる」(6名)、「少し高い」(32名)、「少し低い」(16名)、「低すぎる」(4名)という結果を示している。合計58名の学生がレベルに対して何等かの不満を示している。この数字は全回答者数の約5%に相当する。各学生のレベルに合った授業にするために何等かの方策が必要と考える。

対象：外国語学部、世界教養学部、現代国際学部、世界共生学部 PUT

1. 調査結果の概要

全体平均より低かった項目は2項目、B-①(4.4)、B-③(3.3)であり、それ以外の13項目では、全て全体平均を上回った。この結果から、PUTが学生から高く評価されていることがわかる。

回答率は62%であり、それほど悪くはないと思われるが、理想としてはもっと回答率を上げる方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は2項目、B-①(4.4 < 4.6:全体平均)、B-③(3.3 < 3.6:全体平均)は順に「休まず出席していた」、「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」であった。出席率は全体平均より少し低いが評価自体は概ね良好といえる。シラバスを活用している学生の率は少々低いことを示している。

全体平均より高かった項目は13項目あり、その内全体平均より0.4以上高かった5項目に焦点をあてる。それらはA-①(4.7 > 4.3:全体平均)、B-4(4.5 > 4.0:全体平均)、C-①-1(4.7 > 4.3:全体平均)、C-⑥(4.8 > 4.3:全体平均)、D-②(4.6 > 4.2:全体平均)であった。項目内容は、順に「この授業は、全体として満足であった」、「この授業に関して予習、復習などを積極的行なった」、「授業の進み具合は適切であった」、「学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた」、「この授業に大変興味を持てた」であった。

これらの結果は、教員の教育方法が高く評価され、その効果として学生の授業への興味が増し、学習態度が積極的になったと考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

PUTは4名の学生に対して教員1名という、語学学習として理想的な授業形態である。NUFSの英語教育プログラムの特徴を示す代表的科目として、今後も現在の状況が存続することを期待する。

対象：英米語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2020年度は4.2であったが、当該2021年度は4.5だったので、前年度よりも評価が高まった。

全体平均より低かった項目はなく、一方全体平均より高かった項目は12項目あり、B-③、C-④(全体平均値と同じ)以外の全てであった。CELPの授業が高く評価されたことを示している。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均と同値であった2項目はB-③(3.6)、C-④(4.6)で、順に「この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した」、「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」であった。

それ以外の全ての12項目において全体平均を上回っていたが、0.3高かった項目は1つで、B-4(4.3 > 4.0:全体平均)、0.2高かった5項目は、A-①(4.5 > 4.3:全体平均)、B-5(4.6 > 4.4:全体平均)、C-①-1(4.5 > 4.3:全体平均)、C-⑥(4.5 > 4.3:全体平均)、D-②(4.4 > 4.2:全体平均)であった。項目内容は、順に「予習、復習を積極的行った」、「全体として満足であった」、「教科書、参考書を十分に活用した」、「授業進度が適切」、「学生の積極的授業参加への配慮があった」、「授業への高い興味」であった。これらの結果から、受講生の本授業に関する満足度、興味が高く、学習

を積極的に行ったことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

2. での結果を見れば、本授業が学生から高い評価を得ていることがわかる。少々気になる点としては、レベルについてであり、「少し高い」が2名、「少し低い」が6名いることである。大きな人数ではないが、レベル調整の必要があるかもしれない。

対象：英米語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.5 であったが、当該 2021 年度は 4.7 だったので、前年度よりも評価が高まった。

全体平均を下回った項目は2つ、B-①) と B-③)であり、この2項目以外の13項目では、全体平均を上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より低かった項目は2つであり、B-①) (4.3 > 4.6 : 全体平均) と B-③) (3.3 > 3.6 : 全体平均) であり、項目内容は順に、「休まず出席した」、「シラバスを活用した」であった。

この2項目以外の13項目では、全体平均より上回った。全体平均より0.4以上高かった5項目は、A-①) (4.7 > 4.3 : 全体平均)、B-4) (4.5 > 4.0 : 全体平均)、C-①-1) (4.7 > 4.3 : 全体平均)、C-⑥) (4.8 > 4.3 : 全体平均)、D-3) (4.7 > 4.3 : 全体平均) であり、項目内容は、順に「全体的な満足度が高い」、「予習・復習を積極的行った」、「授業進度が適切」、「学生の積極的授業参加への配慮」、「4 スキルの内いずれか1つ以上の能力を伸ばせた」であった。教員の指導に対する評価が高く、また学生の学習態度も積極的であったことがわかる。

3. 今後の授業改善に向けて

今期同様の取り組みが、今後も望まれる。レベルについては、「少し高い」が3名、「少し低い」が2名、「低すぎる」が1名であった。PUT 実施時のグループメンバー間にレベルの差がある場合は、4名のおみ授業であるため難しいかもしれないが、教員が少々調整することを期待する。

対象：フランス語学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.0 であったが、当該 2021 年度は 4.6 だったので、前年度よりも評価がかなり高まった。

B-①)とB-③)の2項目のみ全体平均より低かったが、それ以外の12項目は全体平均より高い評価であった。気になる点は、回答率が27%とかなり低いため、今後回答率を上げるための方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均よりも低かった 2 項目は、B-① (4.5 < 4.6 : 全体平均) と B-③ (3.2 < 3.6 : 全体平均) であり、項目内容は順に「休まず出席した」、「シラバスを活用した」であったが、出席に関する評価点自体は、よい結果を表している。

一方、全体平均よりも高かった項目 12 個の内、0.4 以上高かった 4 項目は、B-4 (4.8 > 4.0 : 全体平均)、B-5 (4.9 > 4.4 : 全体平均)、C-①-1 (4.7 > 4.3 : 全体平均)、C-② (4.7 > 4.3 : 全体平均) であった。項目内容は、「予習・復習を積極的に行った」、「教科書、参考書等の活用」、「授業の進度が適切」、「教員のわかりやすい説明」であった。教員の説明がわかりやすく、進度も適切であったことが、受講生の学習意欲を高めたと推測する。

3. 今後の授業改善に向けて

今期同様の取り組みが、今後も望まれる。回答率が低いため、全体を把握することは難しいが、回答した学生にとっては、レベルは適切だったことがわかる。

対象：フランス語学科 PLP (英語)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.0 であったが、当該 2021 年度は 4.2 だったので、前年度よりも評価が高まった。

全体平均を上回った項目は 2 項目で B-4、B-5 であり、5 項目において全体平均と同値であった。下回った項目は 10 項目、A-①、B-②、B-③、B-6、C-①-1、C-③、D-①-1、D-②、D-3、D-4 で、多くは微小な差であったが、この内 3 項目は全体平均値より 0.3 以上低い評価であった。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を上回った項目は、B-4 (4.1 > 4.0 : 全体平均)、B-5 (4.5 > 4.4 : 全体平均) の 2 項目であり、項目内容は「予習・復習を積極的に行った」、「教科書、参考書等の活用」であった。

全体平均を下回った項目は 10 項目あり、その内 0.3 以上下回った項目は、B-③ (3.2 < 3.6 : 全体平均)、B-6 (4.1 < 4.4 : 全体平均)、D-①-1 (3.9 < 4.2 : 全体平均) であり、項目内容は順に「シラバスを活用した」、「4 スキルの内いずれか 1 つ以上について積極的に行った」、「授業レベルが適切」であった。

受講生が予習・復習を積極的に行い、参考書等を活用したことは評価できる。

3. 今後の授業改善に向けて

全体的に評価が低い傾向のあることが気にかかる。2021 年度より本授業は選択科目となり、クラスによっては受講生数がかなり多く、一方で非常に少ないクラスが発生した。2022 年度はこのばらつきを解消するために、受講生に上限数を設けた。

D-①-2 は授業レベルについての具体的な回答であるが、回答者 122 名の内「高すぎる (2 名)」、「少し高い (2 名)」、「少し低い (5 名)」、「低すぎる (1 名)」という結果 (計 10 名) がでているため、レベルについては今後何らかの対策を考える必要があるかもしれない。

また、回答率が 38% と低いため、これについても対策が必要である。

対象：中国語学科 CELP（除 PUT）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.3 であったが、当該 2021 年度は 4.1 だったので、前年度よりも評価が下がった。

全体平均を上回った項目は 2 項目、B-4、C-⑤であった。4 項目 B-③、C-①-1、C-②、C-④は、全体平均と同値であり、上記 6 項目以外の 8 項目は全体平均よりも低い評価であった。その内 2 項目 B-5 と D-①-1 では、0.3 以上低い値であった。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を上回った項目は 2 項目、B-4（4.2 > 4.0：全体平均）、C-⑤（4.4 > 4.2：全体平均）であり、項目内容は順に「予習、復習を積極的に行った」、「授業中の私語に適切な処置がとられていた」であった。

8 項目は全体平均よりも低い評価であったが、その内 0.3 以上低い値であった 2 項目は、B-5（4.0 < 4.4：全体平均）と D-①-1（3.9 < 4.2：全体平均）であり、項目内容は「教科書、参考書等の活用」、「授業のレベルが適切」であった。上記以外の 6 項目については、微差であるため特筆すべきことはないと考える。

3. 今後の授業改善に向けて

D-①-2 は授業レベルについての具体的な回答であるが、回答者 105 名の内「高すぎる（2 名）」、「少し高い（7 名）」という結果（計 9 名）がでているため、レベルについては調整が必要となるであろう。

対象：中国語学科 PLP（英語）

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.2 であったが、当該 2021 年度は 4.1 だったので、前年度よりも少し評価が下がった。

全体平均値と同値であった項目は 4 項目 B-①、B-③、B-4、C-⑥であったが、それ以外の 13 項目で全体平均値より下回った。0.3 以上下回った項目は 4 つあり、D-①-1、D-②、D-3、D-4 であった。全体平均値より上回った項目がないため、全般的に評価が少々低い結果となった。

2. 項目ごとの分析結果

0.3 以上下回った 4 項目は、D-①-1（3.9 < 4.2：全体平均）、D-②（3.8 < 4.2：全体平均）、D-3（3.9 < 4.3：全体平均）、D-4（3.7 < 4.2：全体平均）であり、項目内容は順に「授業レベルが適切」、「授業に大変興味を持てた」、「4 スキルの内いずれか 1 つ以上の能力を伸ばせた」、「言語の文化への興味」であった。上記以外の 9 項目においても全体平均より低かったが、微小の差である。

3. 今後の授業改善に向けて

上記の D-②と D-4 の結果から、授業内容に関して学生の興味が若干低いことが窺える。今後は授業内容について再考することも一案であろう。

D-①-2は授業レベルについての具体的な回答であるが、回答者 97 名の内「高すぎる (1 名)」、「少し高い (4 名)」、「少し低い(1 名)」という結果 (計 6 名) がでているため、レベルについても調整が必要となるであろう。

また、回答率が 34%と低いため、これについても今後対策が必要である。

対象：フランス語学科・中国語学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.5 であったが、当該 2021 年度は 4.7 だったので、前年度よりも評価が高まった。

全体平均より下回ったのは B-①と B-③の 2 項目であり、この 2 項目以外の 13 項目では全て上回った。学生が本授業に対して高く評価したことがわかる。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より下回った 2 項目は B-① (4.4 < 4.6:全体平均) と B-③ (3.1 < 3.6:全体平均) であり、項目内容は順に「休まず出席していた」、「シラバスを活用した」であった。

全体平均を上回った 13 項目中、0.4 以上高かった 6 項目は A-① (4.7 > 4.3:全体平均)、B-4 (4.5 > 4.0:全体平均)、C-⑤ (4.6 > 4.2:全体平均)、C-⑥ (4.9 > 4.3:全体平均)、D-② (4.6 > 4.2:全体平均)、D-3 (4.7 > 4.3:全体平均) であり、項目内容は順に「授業は全体として満足」、「予習、復習を積極的に行った」、「授業中の私語に適切な処置がとられていた」、「学生の積極的授業参加への配慮」、「大変興味を持てた」、「4 スキルの内いずれか 1 つ以上の能力を伸ばせた」であった。教員の指導に対する評価が高く、また学生の学習態度も積極的であったことから、能力が伸ばせたという自覚が生まれたと考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

B-③のシラバス活用については評価値が低くなっているため、授業開始時にシラバスについて喚起する必要があると思われる。他の項目についての評価は良好であるため、今期同様の取り組みが、今後も望まれる。

対象：国際日本学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.4 であったが、当該 2021 年度は 4.3 だったので、前年度よりも少し評価が下がった。

A-①の項目は全体平均と同値であり、それ以外の 4 項目 B-②、B-③、D-①-1、D-②で、全体平均を下回っている。上記 5 項目以外の 9 項目では、全体平均より上回っている。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った 2 項目は D-①-1 (4.0 < 4.2:全体平均) と D-② (4.0 < 4.2:全体平均) であり、項目内容は、順に「授業レベルが適切」、「授業内容に大変興味をもてた」であった。

全体平均を上回った 9 項目の内、0.3 以上高かった 2 項目は、B-4 (4.4 > 4.0:全体平均) と C-③

(4.9 > 4.6:全体平均)であり、項目内容は「予習、復習を積極的に行った」、「授業の開始、終了時間を守っていた」であった。

3. 今後の授業改善に向けて

D-①-2で示された授業レベルについては、回答者68名の内「高すぎる」(2名)、「少し高い」(5名)という結果(計7名)であるため、レベルの調整が必要と思われる。

全体平均より上回った項目が多かったため、今年同様の取り組みが今後も望まれる。

対象：国際日本学科 PLP

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2020年度は4.0であったが、当該2021年度は4.5だったので、前年度よりも評価が上がった。

6項目(A-①、C-①-1、C-②、C-④、C-⑥、D-②)で全体平均を上回っており、3項目(B-4、C-③、D-①-1)では全体平均と同値であった。他の5項目では全体平均を下回っていたが、ほとんどが-0.1か-0.2の差であったため、大きな問題はないと考える。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を上回った6項目の内3項目は、A-①(4.5 > 4.3:全体平均)、C-②(4.5 > 4.3:全体平均)、C-⑥(4.5 > 4.3:全体平均)はそれぞれ0.2上回っていた。項目内容は「全体的満足度」「教員のわかりやすい説明」、「学生の積極的授業参加への配慮」であった。

全体平均を下回った項目の中に、C-5(4.0 < 4.2:全体平均)があり、「授業中の私語に適切な処置がとられていた」という内容であったが、他の下回った項目の全体平均との差は微小であるため、大きな問題はないと考える。

3. 今後の授業改善に向けて

D-①-2で示された授業レベルについては、回答者120名の内「少し低い」(3名)、「低すぎる」(1名)という結果(計4名)で、若干名であるがレベルの調整も必要と思われる。

総合的にみて良好な評価結果であるため、今年同様の取り組みが、今後も望まれる。

しかしながら、回答率が40%と低いため、これについても今後対策が必要である。

対象：国際日本学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度2020年度は4.4であったが、当該2021年度は4.5だったので、前年度よりも評価が微増した。

全体平均より上回った項目は15項目中11項目であり、その内7項目は0.4以上上回った。C-④、D-①-1の2項目は全体平均と同値であり、2項目B-③とC-③は下回ったが、総合的にみて評価が高いと言える。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均より 0.4 以上高かった 7 項目は、A-① (4.8 > 4.3:全体平均)、B-4 (4.5 > 4.0:全体平均)、B-6 (4.8 > 4.4:全体平均)、C-①-1 (4.7 > 4.3:全体平均)、C-⑥ (4.8 > 4.3:全体平均)、D-② (4.6 > 4.2:全体平均)、D-3 (4.7 > 4.3:全体平均) であり、項目内容は「全体として満足」、「予習・復習を積極的に行った」、「4 スキルの内 1 つ以上を積極的に行った」、「授業進度が適切」、「学生の積極的授業参加への配慮」、「授業に大変興味をもてた」、「4 スキルの内いずれか 1 つ以上の能力を伸ばせた」であった。

教員が学生の授業参加を効果的に促した結果、学習意欲が増したことが窺える。

3. 今後の授業改善に向けて

D-①-2 で示された授業レベルについては、回答者 42 名の内「少し低い」(2 名)、「少し高い」(1 名)「高すぎる」(1 名)という結果(計 4 名)で、若干名であるがレベルの調整も必要と思われる。

対象：世界教養学科 CELP (除 PUT)

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.1 であったが、当該 2021 年度は 4.6 だったので、前年度よりも評価が上がった。

14 項目中 1 項目 B-①のみ全体平均と同値であったが、それ以外の 13 項目では全体平均値よりも高い評価であった。全体平均値より 0.4 以上高かった項目は 3 つあり、B-③、B-4、D-②であった。授業評価は良好であると言える。

気になる点は、回答率の低さ(27%)である。昨年度の回答率は 53%であったため、20%以上下がっている。今後は、回答率を上げるために何等かの方策を考える必要がある。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を 0.4 以上上回った 3 項目は B-③ (4.1 > 3.6:全体平均)、B-4 (4.4 > 4.0:全体平均)、C-② (4.7 > 4.3:全体平均) であり、項目内容は、「シラバスの活用」、「予習・復習を積極的に行った」、「教員はわかりやすく説明した」であった。ほとんど全ての項目で評価が良好であったことから、教員の指導法が高く評価され、その効果によって学生の学習意欲が高まったと思われる。

3. 今後の授業改善に向けて

今期同様の取り組みが今後も望まれる。回答率が低いため、全体を把握することは難しいが、D-①-2 で示された授業レベルについては、回答者 82 名中「少し高い」が 3 名であるため、レベルの調整が少々必要と思われる。

対象：世界教養学科 PUT

1. 調査結果の概要

「全体としての満足度」についての項目は、前年度 2020 年度は 4.3 であったが、当該 2021 年度は 4.6 だったので、前年度よりも評価が上がった。

3 項目（B-①、B-③、C-④）では全体平均を下回っており、1 項目D-①-1は同値であった。他の 11 項目では全体平均を上回っていた。総合的にみて評価が高いと言える。

2. 項目ごとの分析結果

全体平均を下回った 3 項目は、B-①（4.1 < 4.6:全体平均）、B-③（3.2 < 3.6:全体平均）、C-④（4.4 < 4.6:全体平均）であり、項目内容は「授業には休まず出席した」、「シラバスを活用した」、「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」であった。

15 項目中 11 項目では全体平均を上回っていたが、0.4 以上高かった 2 項目はC-①-1（4.7 > 4.3:全体平均）、C-⑥（4.7 > 4.3:全体平均）であり、項目内容は順に「授業進度が適切」、「学生の積極的授業参加への配慮」であった。

教員が学生の授業参加を促したことにより、学生の積極的な学習が進んだと解釈できる。

3. 今後の授業改善に向けて

評価の結果からは、特に問題はないと考える。D-①-2の欄(授業レベル)で、回答者 76 名中「少し高い」が 3 名となっているため、教員は学生の理解の度合いをくみ取りながら授業レベルを調整することによって、さらによい結果が期待できる。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	大学院	担当者	鈴木茂
------	-----	-----	-----

1. 調査結果の概要

受講者数 55 名に対して、回答者すうは 17 名で、回答率は 31%という結果であった。17 名の回答者のうち、今年度入学者が 6 名、他の 11 名の回答者は入学年度不明。いずれの項目についても、平均が 4.6～5.0 と高い評価を受けている。

2. 項目ごとの分析結果

受講者の履修態度に関する A の質問項目では、圧倒的に 5 の回答が多く、受講者の真剣な取り組みがわかり。また、教員の授業姿勢に関する C の質問項目への回答は、平均 4.8～5.0 となっており、教員の授業への熱意が受講者に伝わっていることが反映しているものと考えられる。

3. 今後の授業改善に向けて

3 以下の回答がほぼ見られないところから、今回の授業アンケート結果からは、特に改善を要する点は見つからなかった。

2021年度2期授業改善のためのアンケート調査－学科・センター分析結果

組織名称	国際日本語教育インスティテュート (日本語科目とジャパNSTディーズ科目)	担当者	村上かおり 櫻井省吾
------	--	-----	---------------

1. 調査結果の概要

● 日本語科目

2021年度2期もコロナ禍の継続によって交換留学生の来日が叶わぬ学期となり、本国際日本語教育インスティテュート(IJLE)では48名が母国からオンラインで日本語科目を受講した。週8コマの集中コースを8つ(世界各国にいる受講生の時間帯に合わせるため、1,2限連続のコースを4つ、6,7限連続のコースを4つ)と3限または4限に週1コマの日本語能力試験対策のコース2つを開講した。

● ジャパNSTディーズ科目

2020年度に引き続き2021年度2期も外国人留学生の来日が不可能となり、留学生は母国からオンラインでジャパNSTディーズ科目を受けた。受講者数170名の内、本アンケートに回答した学生は57名(回収率34%)であり、その内訳は留学生が40名、国内学生が17名である。回収率が低く、アンケートに回答した学生が留学生に偏っているため、どこまでこの結果が母集団を反映しているか疑問は残るが、①すべての項目の平均点が4～5点の間にあり、②すべての項目の平均点は、全体平均と比較したところ、同点かそれよりも高い点数であった。そのため、ジャパNSTディーズを受講した学生の授業・教員に対する評価は高いと言えるだろう。

2. 項目ごとの分析結果

● 日本語科目

14項目中全項目において平均値が4.4以上、そのうち7項目が4.8以上であった。これは概ね良好と言ってよい結果である。日本時間の午前、午後、夜それぞれの時間帯における担当教員の努力と工夫が功を奏して受講生の高い満足度につながったと言える。なお、B-4「シラバスの活用」に関する項目についてであるが、IJLEではプレイスメントテストによって一律にクラス分けを行なっているため、受講生自身がシラバスを読んで受講コースを選択することが困難だという事実が、4.4という低めの結果に反映されたと考えられる。

● ジャパNSTディーズ科目

全体の中でも比較的高い平均点を出した項目は、「この授業には、真剣な態度で受講した(4.7)」「この授業には休まず出席した(4.6)」「授業の開始時間・終了時間はきちんと守られていた(4.6)」「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた(4.6)」「この授業に大変興味を持てた(4.6)」であった。これらの結果を概観したところ、ジャパNSTディーズが留学生・国内学生の様々な興味・関心に合わせてバラエティーにとんだ科目を用意し、教員が自分の専門分野を熱意を持って教え、その授業に学生が満足し、休まず真剣な態度で受講したという、一連の正の連鎖を引き起こしたことがうかがえる。

3. 今後の授業改善に向けて

- 日本語科目

コロナ禍が継続していた間はオンラインのみでの授業を実施してきたが、本原稿を書いている 2022 年度 1 期の時点ではコロナ禍が収束に向かうことによって留学生の来日が再び可能となり、対面授業が再開されている。そのため、今後はオンラインのみで授業を行っていた期間と比較するとコース数も受講生数も更なる伸びが期待される。今後も授業の質を維持して受講生の日本語力伸長を目指し、高い満足度をもたらし続けるための教育の実施に力を注ぎ続けたい。

- ジャパンスタディーズ科目

全体の平均点をみると満足度は高いと言えるが、選択された回答を細かく見たところ、授業の進み具合を「遅すぎる」と回答した学生や、授業のレベルが「少し低い」「低すぎる」と回答した学生が見られた（おそらく留学生であろう）。英語で留学生と日本人学生と一緒に教えるジャパンスタディーズならではの問題ともいえる。授業の質の標準をどこに合わせるのか、また、授業の質を担保しつつ留学生にも日本人にも満足のいく授業を展開する方法論を考えていく必要がある。他校では「国際共修」という名のもとに広くカリキュラム、教授法、評価法等が研究されているため、他校での実践から学べるところも多くあるだろう。ジャパンスタディーズ科目の質と、留学生・日本人学生双方の満足度を追求し、より充実したプログラムにしていくための 1 つの解決案だと考える。

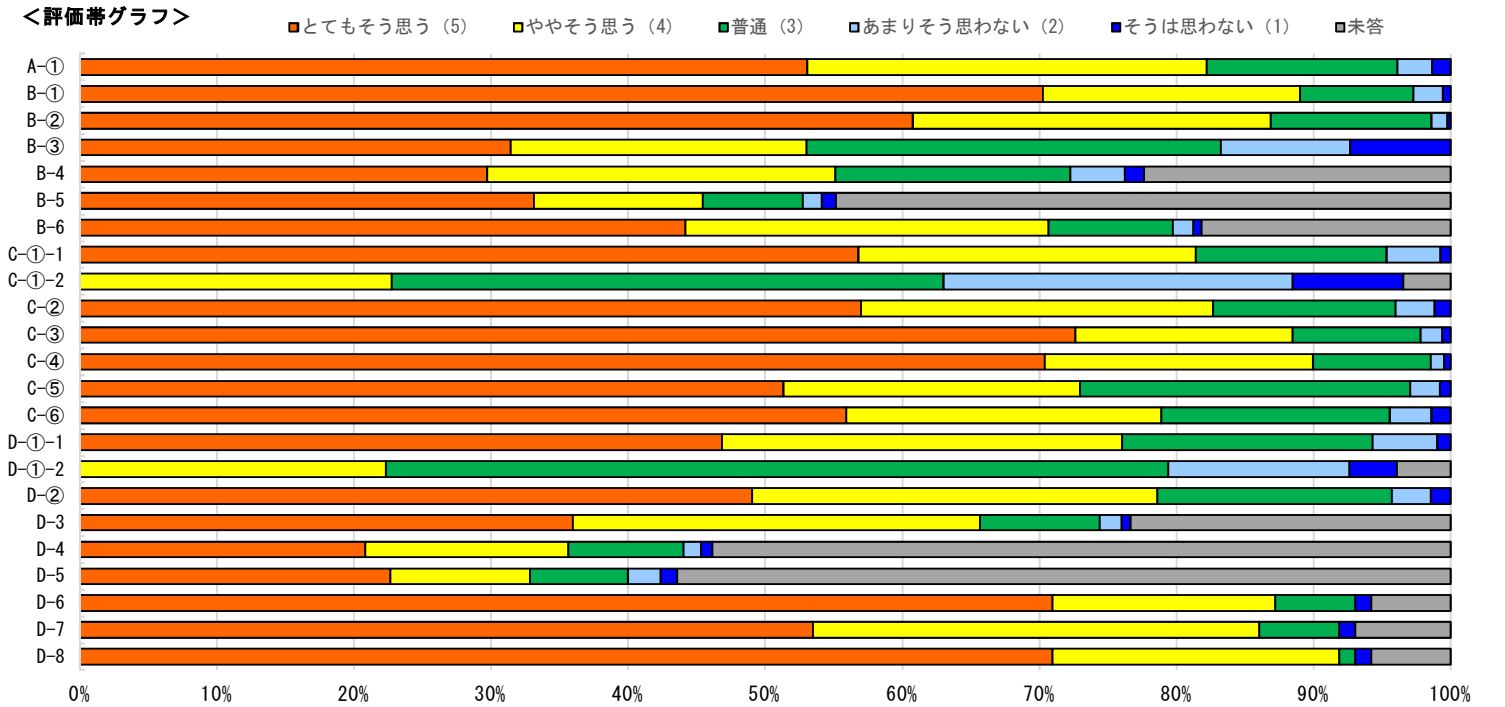
集計区分別評価結果

集計単位	全学
集計名称	全学

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	5,063	---	---
20生	3,836	---	---
19生	1,730	---	---
18生以前	316	---	---
その他	193	---	---
不明	0	---	---
合計	11,138	35,814	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	5,910	3,244	1,554	276	154	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	7,822	2,095	918	241	62	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	6,770	2,905	1,307	131	25	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	3,504	2,399	3,367	1,053	815	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	3,284	2,805	1,895	438	157	2,473	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	3,464	1,288	762	147	104	4,689	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	2,311	1,385	474	77	33	950	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	6,324	2,743	1,552	433	86	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合	118	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。		118	209	132	42	18		
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	8,089	1,766	1,037	178	68	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	7,838	2,179	959	109	53	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5,718	2,406	2,684	241	89	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6,229	2,557	1,855	338	159	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	5,217	3,250	2,035	524	112	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合	142	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。		142	363	84	22	25		
D-③ この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	1,882	1,553	456	83	34	1,222	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	965	687	388	58	40	2,494	4.2	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	76	34	24	8	4	189	4.2	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	61	14	5	0	1	5	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	46	28	5	0	1	6	4.5	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	61	18	1	0	1	5	4.7	4.7



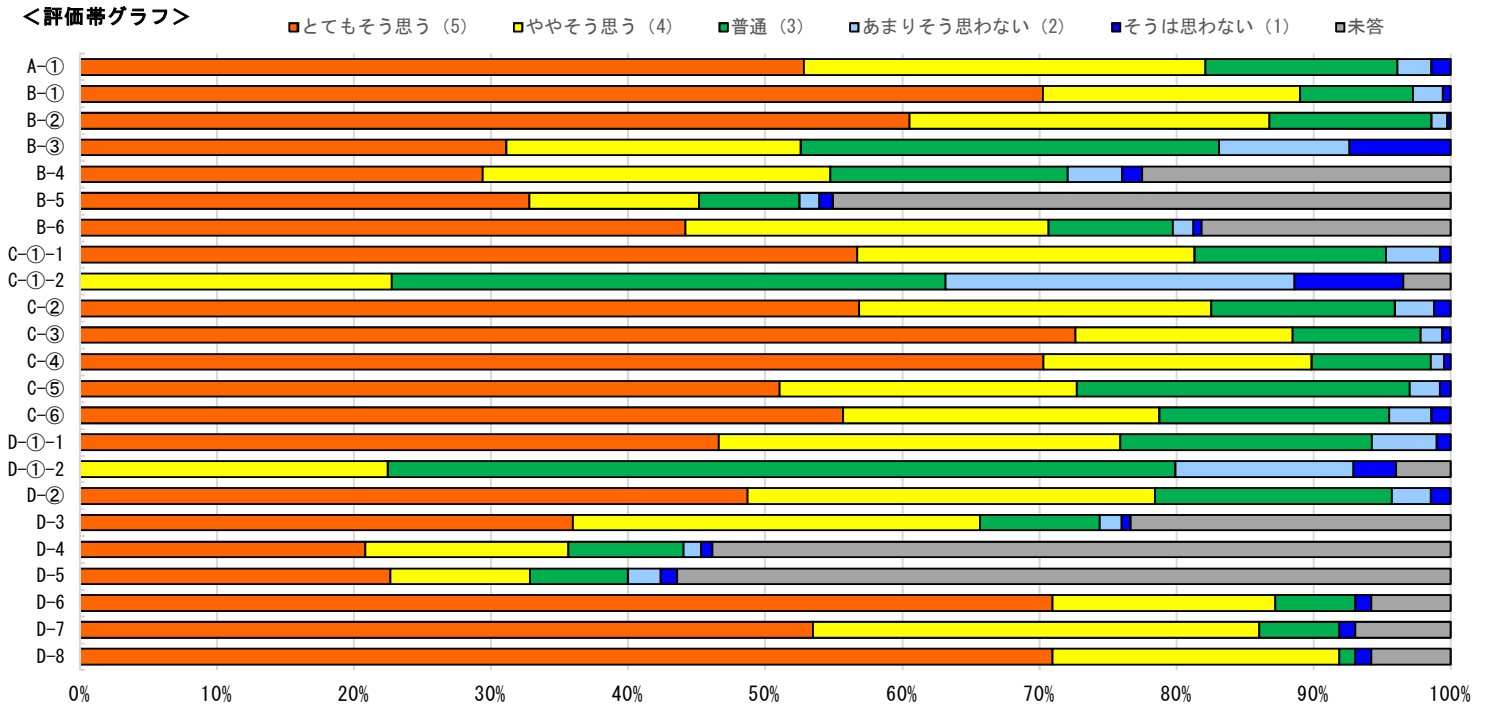
集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	学部

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	5,026	---	---
20生	3,824	---	---
19生	1,727	---	---
18生以前	312	---	---
その他	127	---	---
不明	0	---	---
合計	11,016	35,518	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	5,822	3,222	1,544	274	154	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	7,738	2,068	908	240	62	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	6,666	2,893	1,301	131	25	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	3,429	2,367	3,357	1,051	812	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	3,211	2,773	1,891	437	156	2,462	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	3,387	1,278	761	147	103	4,656	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	2,311	1,385	474	77	33	950	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	6,247	2,713	1,538	432	86	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合	118	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。		118	209	132	41	18		
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	7,999	1,745	1,027	177	68	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	7,741	2,157	956	109	53	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	5,622	2,388	2,677	241	88	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	6,132	2,543	1,847	337	157	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	5,133	3,226	2,025	520	112	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合	142	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。		142	363	82	20	25		
D-③ この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	1,882	1,553	456	83	34	1,222	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	965	687	388	58	40	2,494	4.2	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	76	34	24	8	4	189	4.2	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	61	14	5	0	1	5	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	46	28	5	0	1	6	4.5	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	61	18	1	0	1	5	4.7	4.7



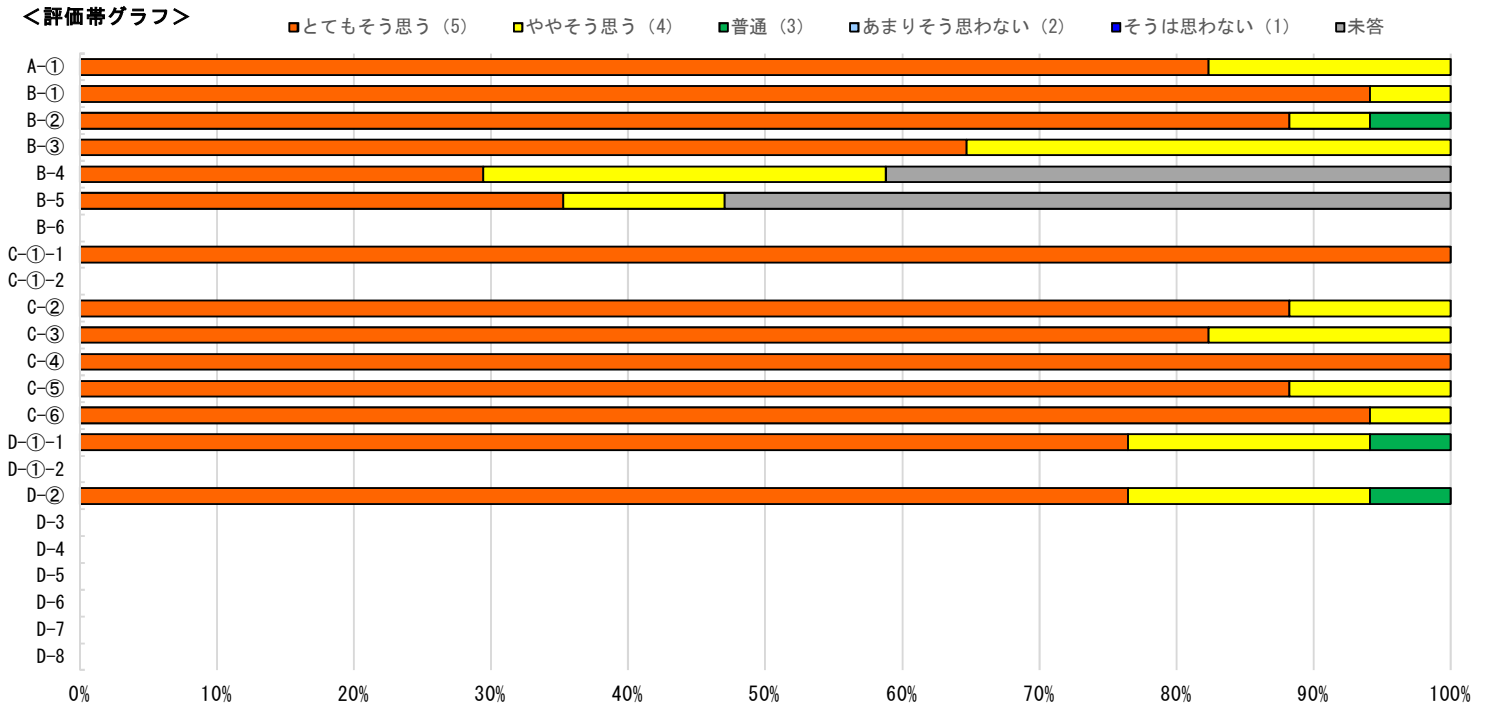
集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	大学院

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	6	---	---
20生	0	---	---
19生	0	---	---
18生以前	0	---	---
その他	11	---	---
不明	0	---	---
合計	17	55	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	14	3	0	0	0	0	4.8	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	16	1	0	0	0	0	4.9	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	15	1	1	0	0	0	4.8	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	11	6	0	0	0	0	4.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	5	5	0	0	0	7	4.5	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	6	2	0	0	0	9	4.8	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	17	0	0	0	0	0	5.0	4.3
C-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15	2	0	0	0	0	4.9	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	14	3	0	0	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	17	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	15	2	0	0	0	0	4.9	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	16	1	0	0	0	0	4.9	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	13	3	1	0	0	0	4.7	4.2
D-①-2	そうは思わない、あまりそう思わないの場合	高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
		0	0	0	0	0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	13	3	1	0	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



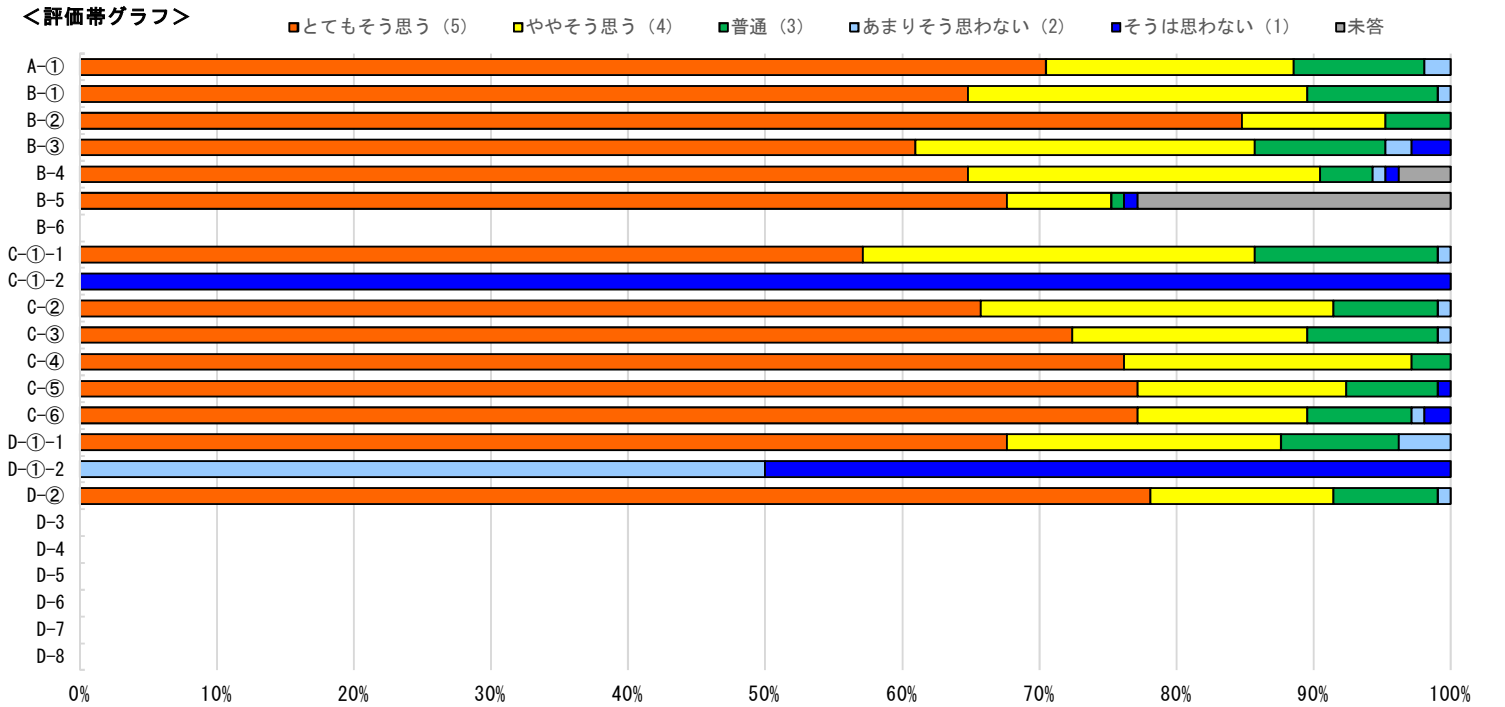
集計区分別評価結果

集計単位	学部、大学院、別科
集計名称	別科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	31	---	---
20生	12	---	---
19生	3	---	---
18生以前	4	---	---
その他	55	---	---
不明	0	---	---
合計	105	241	44%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	74	19	10	2	0	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	68	26	10	1	0	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	89	11	5	0	0	0	4.8	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	64	26	10	2	3	0	4.4	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	68	27	4	1	1	4	4.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	71	8	1	0	1	24	4.8	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	60	30	14	1	0	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	69	27	8	1	0	0	4.6	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	76	18	10	1	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	80	22	3	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	81	16	7	0	1	0	4.7	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	81	13	8	1	2	0	4.6	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	71	21	9	4	0	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	82	14	8	1	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



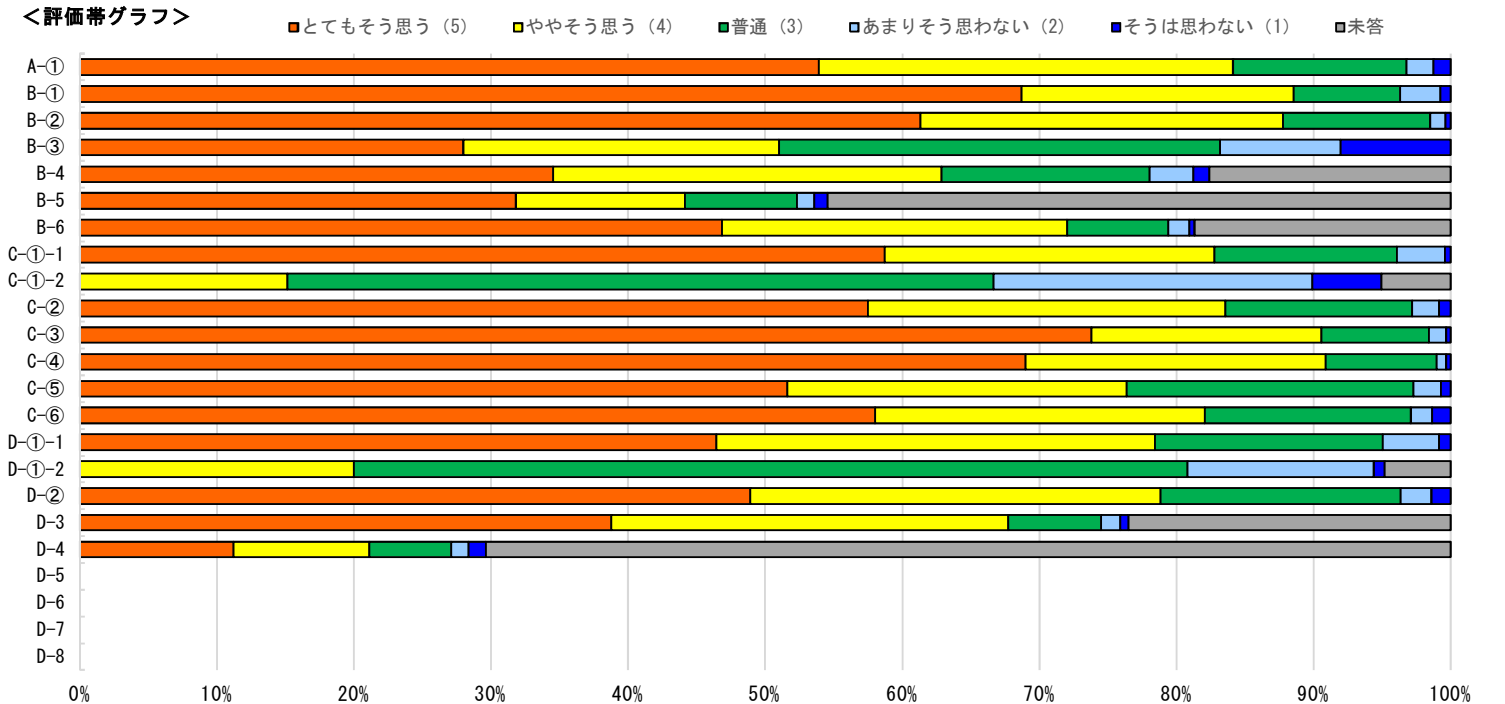
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	英米語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	1,073	---	---
20生	867	---	---
19生	445	---	---
18生以前	113	---	---
その他	30	---	---
不明	0	---	---
合計	2,528	8,495	30%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,363	763	320	50	32	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,737	502	195	75	19	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,550	668	272	28	10	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	708	582	813	222	203	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	873	716	384	80	30	445	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	730	282	188	29	22	1,042	4.3	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	700	376	110	23	6	279	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,484	608	337	88	11	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,454	658	345	49	22	0	4.4	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,866	423	199	31	9	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,744	554	204	17	9	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	1,305	626	528	51	18	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,466	609	380	39	34	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	1,174	808	421	103	22	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,236	757	443	56	36	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	579	433	101	21	9	351	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	141	125	75	16	16	886	4.0	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



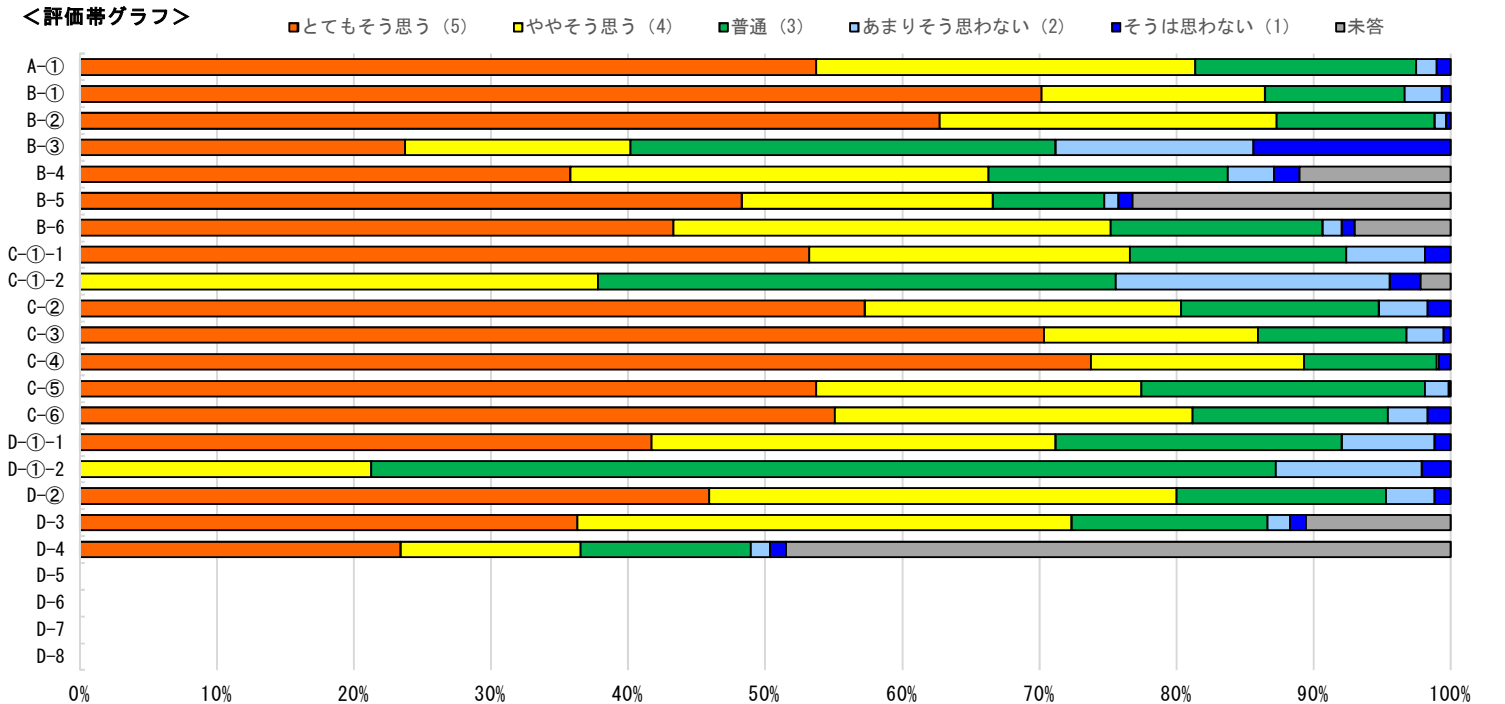
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	フランス語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	115	---	---
20生	244	---	---
19生	200	---	---
18生以前	13	---	---
その他	18	---	---
不明	0	---	---
合計	590	1,502	39%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	317	163	95	9	6	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	414	96	60	16	4	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	370	145	68	5	2	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	140	97	183	85	85	0	3.2	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	211	180	103	20	11	65	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	285	108	48	6	6	137	4.5	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれかが1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	185	136	66	6	4	30	4.2	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	314	138	93	34	11	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 17	少し早い 17	少し遅い 9	遅すぎる 1	未答 1		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	338	136	85	21	10	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	415	92	64	16	3	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	435	92	57	1	5	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	317	140	122	10	1	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	325	154	84	17	10	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	246	174	123	40	7	0	4.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 10	少し高い 31	少し低い 5	低すぎる 1	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	271	201	90	21	7	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	155	154	61	7	5	45	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	100	56	53	6	5	207	4.1	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



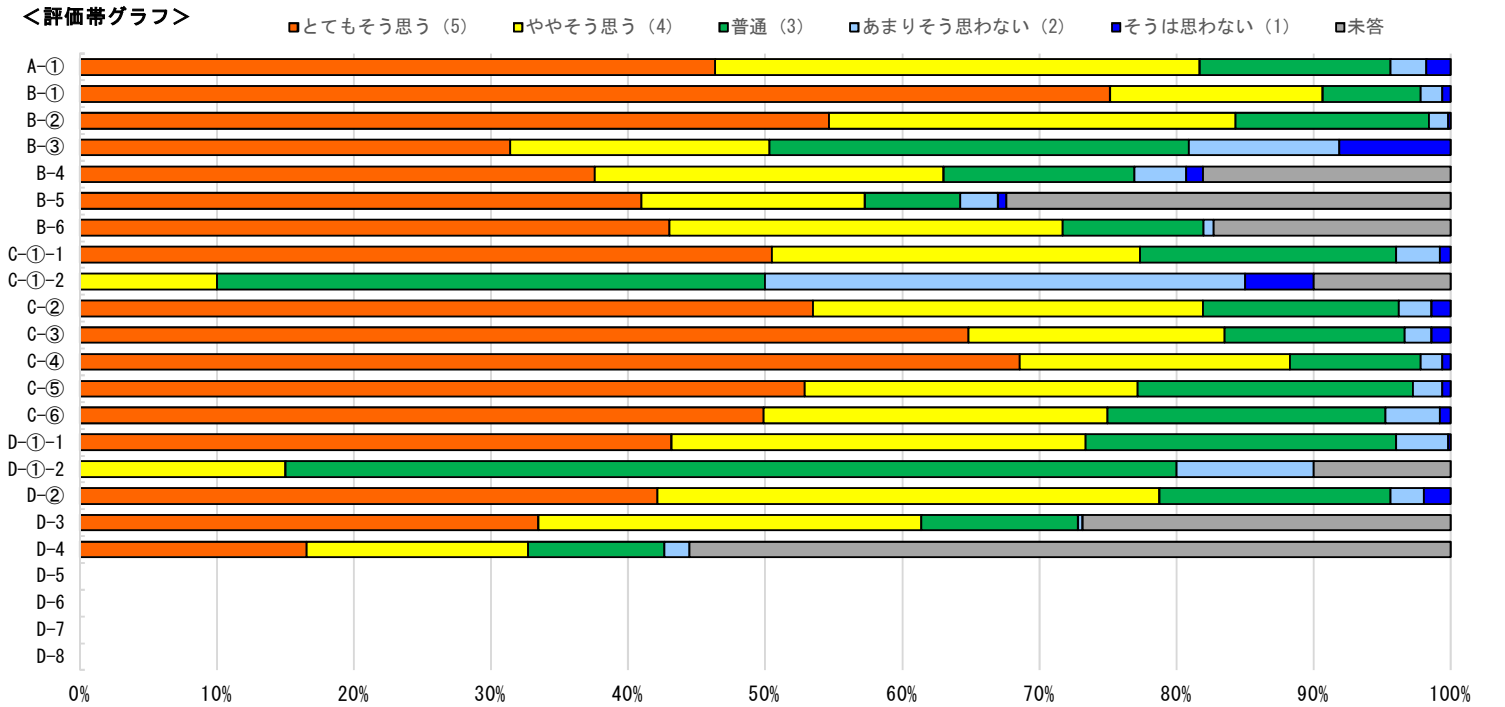
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	中国語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	258	---	---
20生	143	---	---
19生	96	---	---
18生以前	3	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	503	1,568	32%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	233	178	70	13	9	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	378	78	36	8	3	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	275	149	71	7	1	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	158	95	154	55	41	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	189	128	70	19	6	91	4.2	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	206	82	35	14	3	163	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	117	78	28	2	0	47	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	254	135	94	16	4	0	4.2	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 2	少し早い 8	少し遅い 7	遅すぎる 1	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	269	143	72	12	7	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	326	94	66	10	7	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	345	99	48	8	3	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	266	122	101	11	3	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	251	126	102	20	4	0	4.2	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	217	152	114	19	1	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 3	少し高い 13	少し低い 2	低すぎる 0	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	212	184	85	12	10	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	91	76	31	1	0	73	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	45	44	27	5	0	151	4.1	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



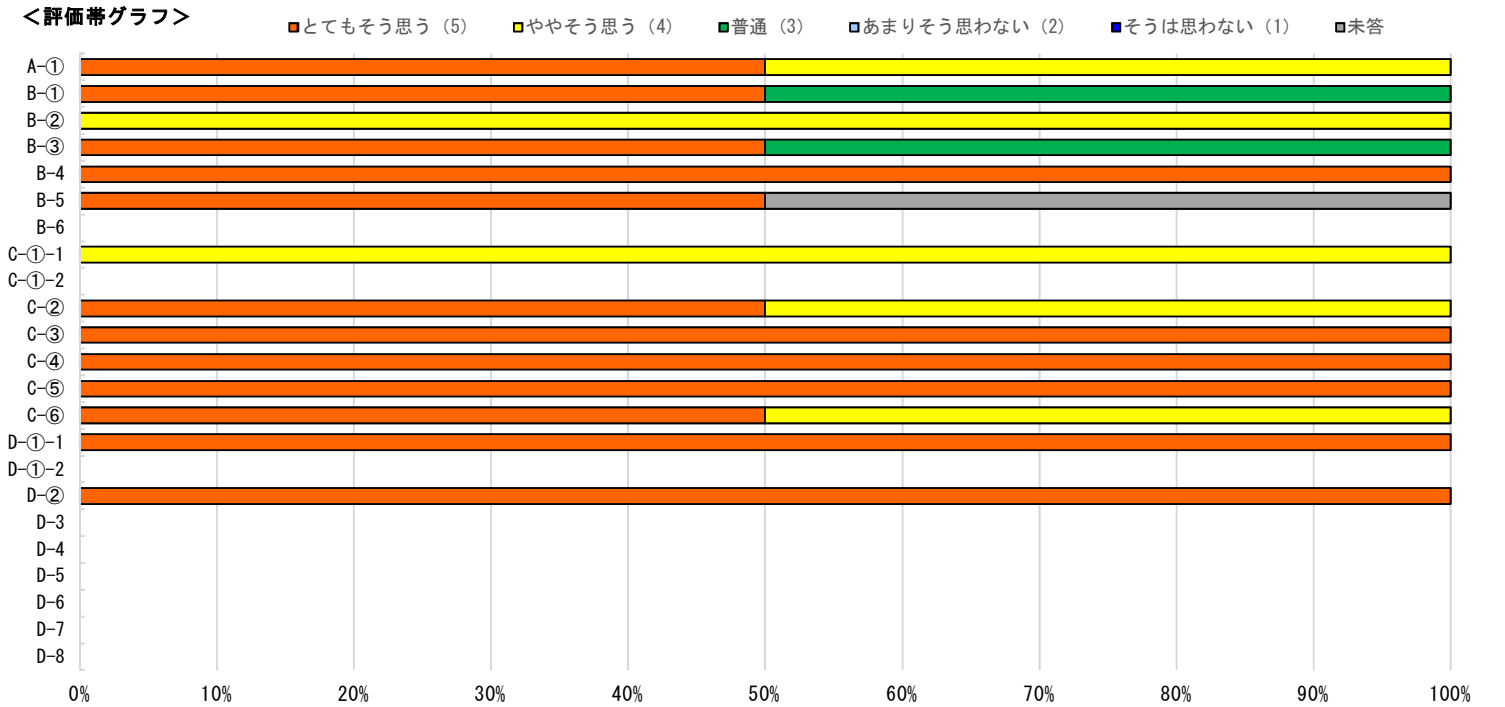
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	日本語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	0	---	---
20生	0	---	---
19生	0	---	---
18生以前	2	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	2	14	14%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1	1	0	0	0	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1	0	1	0	0	0	4.0	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	0	2	0	0	0	0	4.0	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	1	0	1	0	0	0	4.0	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	1	0	0	0	0	1	5.0	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	0	2	0	0	0	0	4.0	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 0	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1	1	0	0	0	0	4.5	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1	1	0	0	0	0	4.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	2	0	0	0	0	0	5.0	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



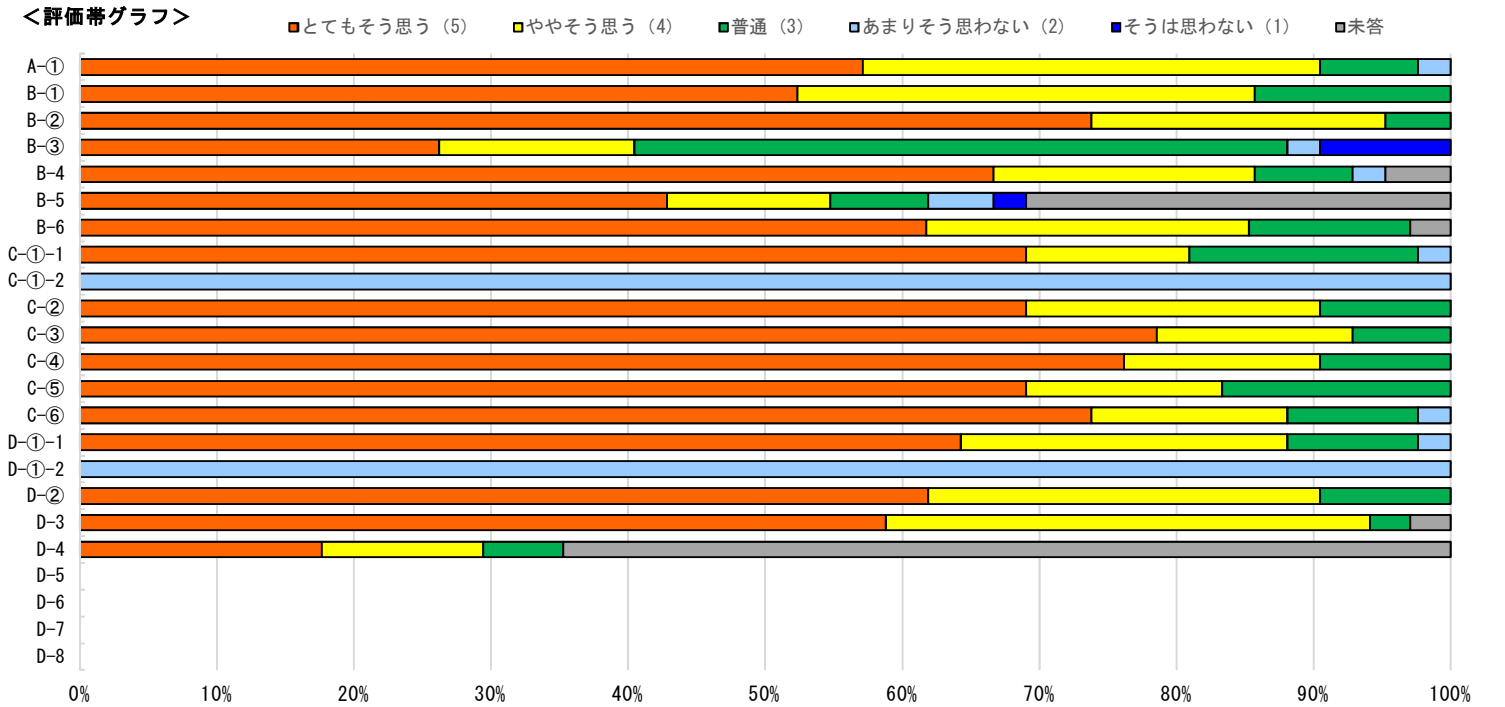
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（外）

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	0	---	---
20生	0	---	---
19生	4	---	---
18生以前	21	---	---
その他	17	---	---
不明	0	---	---
合計	42	218	19%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	24	14	3	1	0	0	4.5	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	22	14	6	0	0	0	4.4	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	31	9	2	0	0	0	4.7	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	11	6	20	1	4	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	28	8	3	1	0	2	4.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	18	5	3	2	1	13	4.3	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	21	8	4	0	0	1	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	29	5	7	1	0	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 1	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	29	9	4	0	0	0	4.6	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	33	6	3	0	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	32	6	4	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	29	6	7	0	0	0	4.5	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	31	6	4	1	0	0	4.6	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	27	10	4	1	0	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 1	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	26	12	4	0	0	0	4.5	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	20	12	1	0	0	1	4.6	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	6	4	2	0	0	22	4.3	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



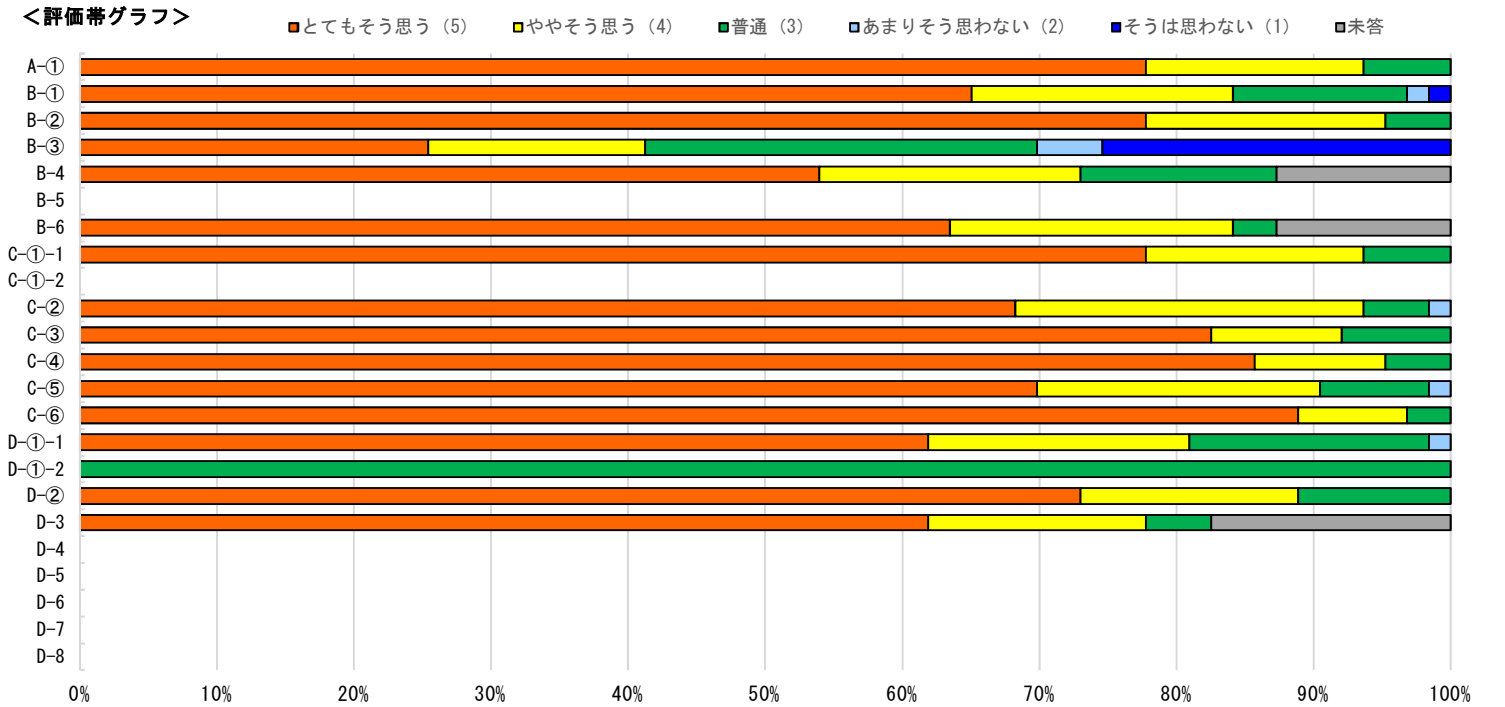
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	外国語学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	62	---	---
20生	1	---	---
19生	0	---	---
18生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	63	117	54%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	49	10	4	0	0	0	4.7	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	41	12	8	1	1	0	4.4	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	49	11	3	0	0	0	4.7	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	16	10	18	3	16	0	3.1	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	34	12	9	0	0	8	4.5	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	0	0	0	0	0	0	-	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	40	13	2	0	0	8	4.7	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	49	10	4	0	0	0	4.7	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 0	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	43	16	3	1	0	0	4.6	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	52	6	5	0	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	54	6	3	0	0	0	4.8	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	44	13	5	1	0	0	4.6	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	56	5	2	0	0	0	4.9	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	39	12	11	1	0	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 1	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	46	10	7	0	0	0	4.6	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	39	10	3	0	0	11	4.7	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



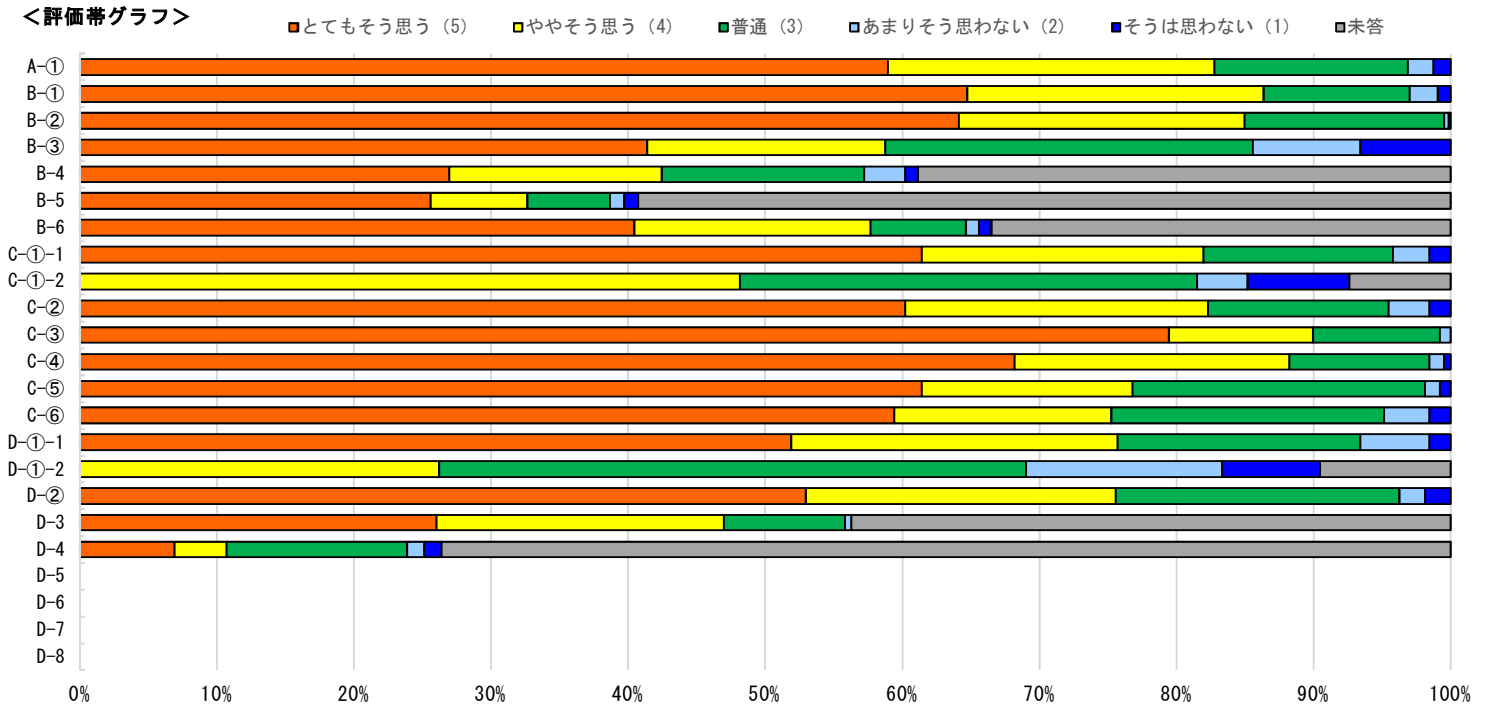
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	グローバルビジネス学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	416	---	---
20生	134	---	---
19生	67	---	---
18生以前	18	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	638	2,081	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	376	152	90	12	8	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	413	138	68	13	6	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	409	133	93	2	1	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	264	111	171	50	42	0	3.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	172	99	94	19	6	248	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	149	41	35	6	6	345	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	87	37	15	2	2	72	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	392	131	88	17	10	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 13	少し早い 9	少し遅い 1	遅すぎる 2	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	384	141	84	19	10	0	4.4	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	507	67	59	5	0	0	4.7	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	435	128	65	7	3	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	392	98	136	7	5	0	4.4	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	379	101	127	21	10	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	331	152	113	32	10	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 11	少し高い 18	少し低い 6	低すぎる 3	未答 4		
D-② この授業に大変興味を持てた。	338	144	132	12	12	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	56	45	19	1	0	94	4.3	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	11	6	21	2	2	117	3.5	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



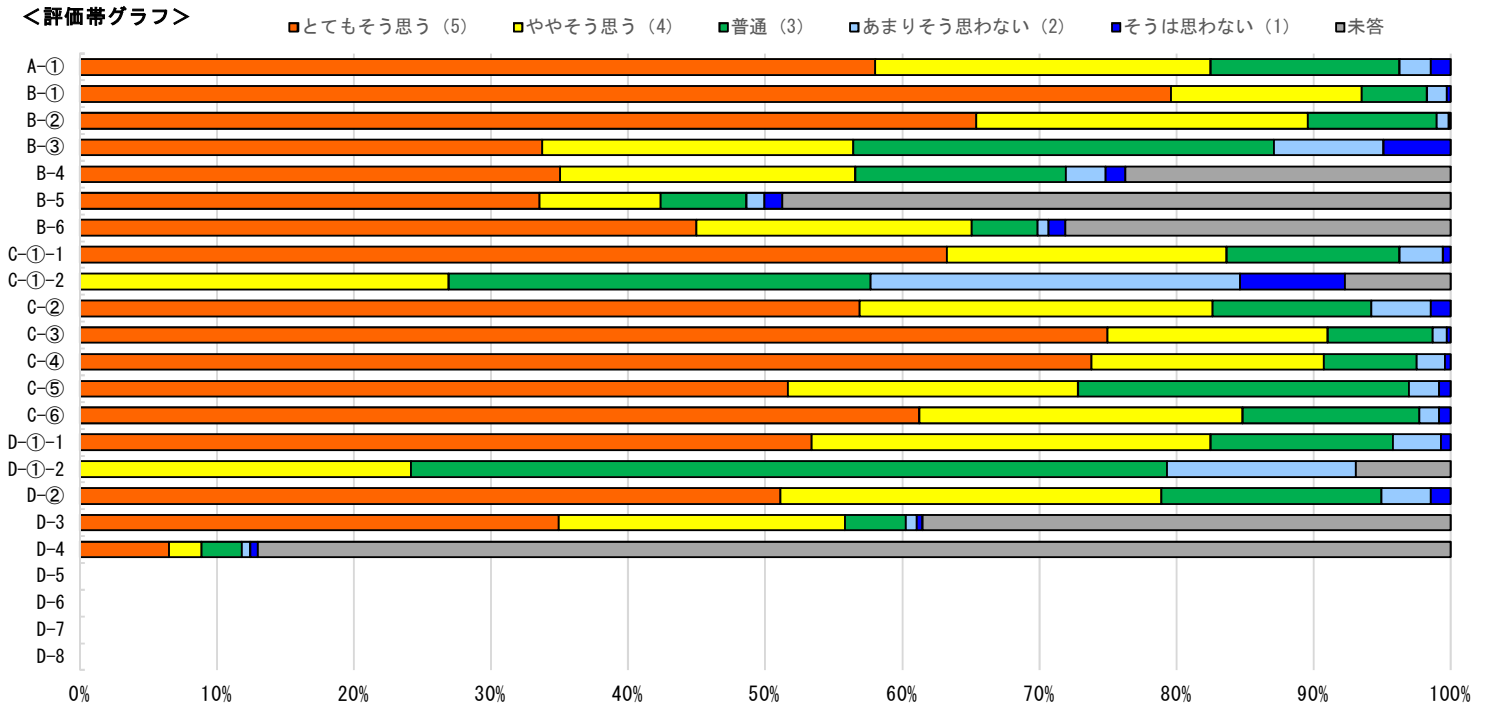
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代英語学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	447	---	---
20生	197	---	---
19生	36	---	---
18生以前	8	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	691	2,019	34%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	401	169	95	16	10	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	550	96	33	10	2	0	4.7	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	452	167	65	6	1	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	233	157	212	55	34	0	3.7	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	242	149	106	20	10	164	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	205	54	38	8	8	298	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	112	50	12	2	3	70	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	437	141	87	22	4	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 7	少し早い 8	少し遅い 7	遅すぎる 2	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	393	178	80	30	10	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	518	111	53	7	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	510	117	47	14	3	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	357	146	167	15	6	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	423	163	89	10	6	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	369	201	92	24	5	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 7	少し高い 16	少し低い 4	低すぎる 0	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	353	192	111	25	10	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	87	52	11	2	1	96	4.5	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	11	4	5	1	1	147	4.0	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



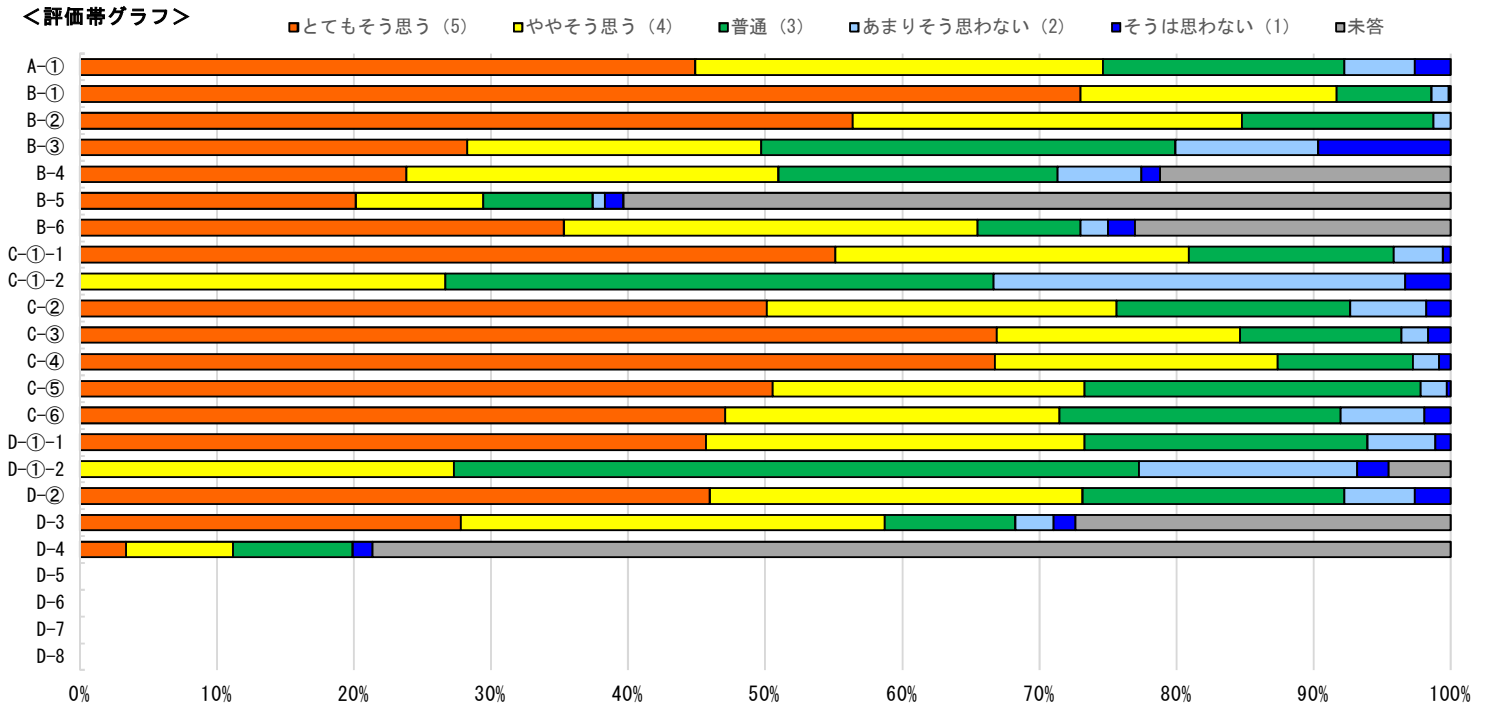
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際教養学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	338	---	---
20生	314	---	---
19生	56	---	---
18生以前	11	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	722	2,106	34%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	324	215	127	37	19	0	4.1	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	527	135	50	9	1	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	407	205	101	9	0	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	204	155	218	75	70	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	172	196	147	44	10	153	3.8	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	136	63	54	6	9	408	4.2	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	89	76	19	5	5	58	4.2	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	398	186	108	26	4	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 8	少し早い 12	少し遅い 9	遅すぎる 1	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	362	184	123	40	13	0	4.2	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	483	128	85	14	12	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	482	149	71	14	6	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	365	164	177	14	2	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	340	176	148	44	14	0	4.1	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	330	199	149	36	8	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 12	少し高い 22	少し低い 7	低すぎる 1	未答 2		
D-② この授業に大変興味を持てた。	332	196	138	37	19	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	70	78	24	7	4	69	4.1	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	7	16	18	0	3	162	3.5	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



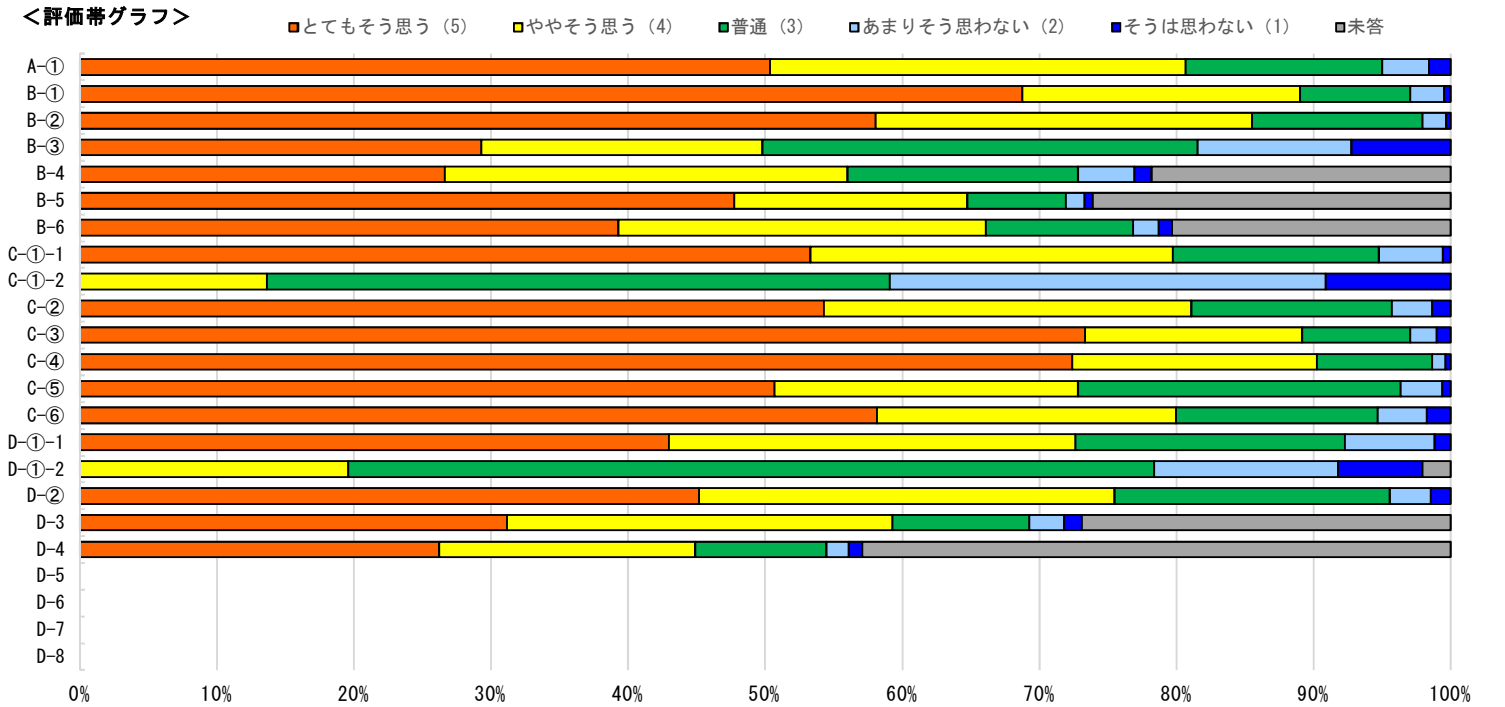
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	現代国際学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	630	---	---
20生	569	---	---
19生	41	---	---
18生以前	12	---	---
その他	5	---	---
不明	0	---	---
合計	1,257	3,190	39%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	633	381	180	43	20	0	4.2	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	864	255	101	31	6	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	730	345	156	22	4	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	368	258	399	141	91	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	335	369	211	52	16	274	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	600	214	90	17	8	328	4.5	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	358	244	98	17	9	185	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	670	332	189	59	7	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	682	337	184	37	17	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	922	199	99	24	13	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	910	224	106	12	5	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	637	278	296	38	8	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	731	274	185	45	22	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	540	373	247	82	15	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	568	381	252	38	18	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	284	256	91	23	12	245	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	239	170	87	15	9	391	4.2	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



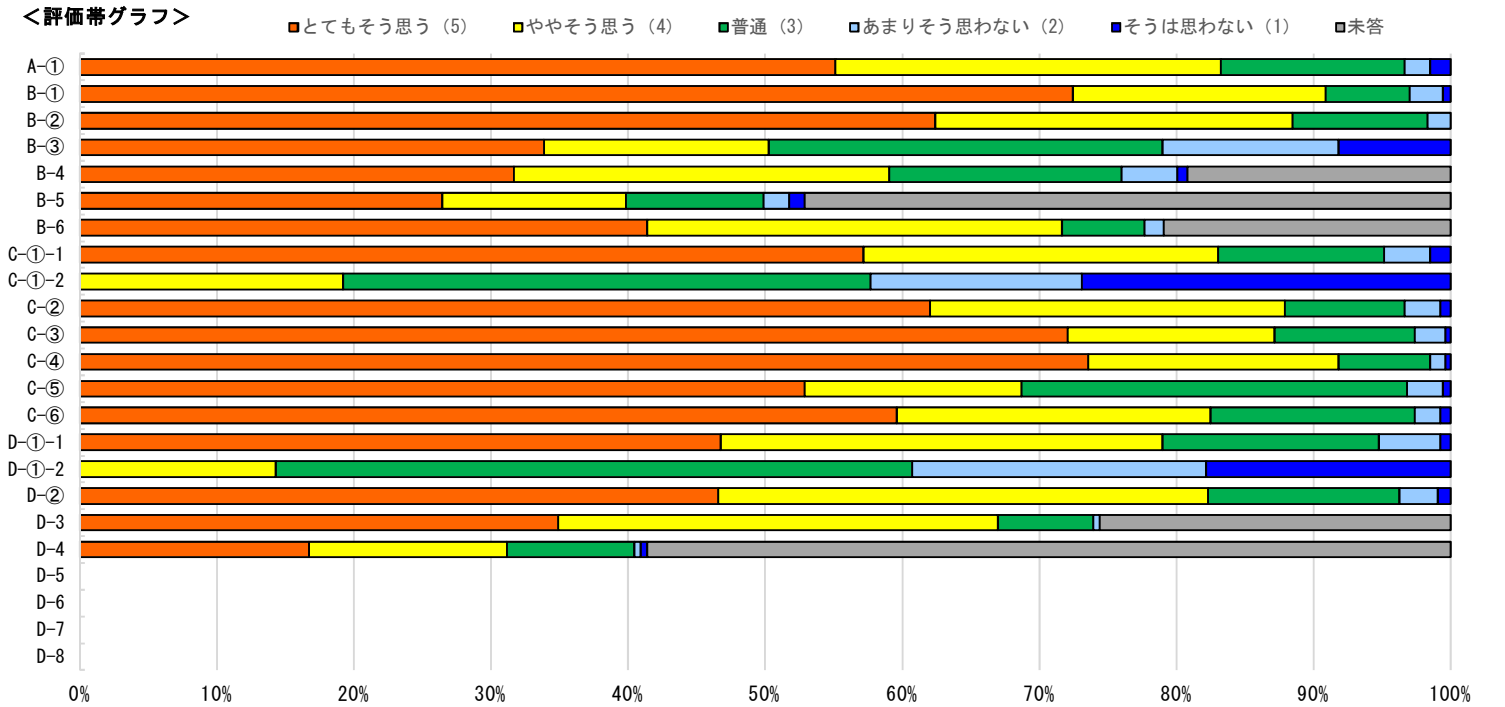
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界共生学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	252	---	---
20生	145	---	---
19生	114	---	---
18生以前	23	---	---
その他	3	---	---
不明	0	---	---
合計	537	1,531	35%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	296	151	72	10	8	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	389	99	33	13	3	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	335	140	53	9	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	182	88	154	69	44	0	3.5	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	170	147	91	22	4	103	4.1	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	142	72	54	10	6	253	4.2	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	89	65	13	3	0	45	4.4	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	307	139	65	18	8	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 5	少し早い 10	少し遅い 4	遅すぎる 7	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	333	139	47	14	4	0	4.5	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	387	81	55	12	2	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	395	98	36	6	2	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	284	85	151	14	3	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	320	123	80	10	4	0	4.4	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	251	173	85	24	4	0	4.2	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 4	少し高い 13	少し低い 6	低すぎる 5	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	250	192	75	15	5	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	75	69	15	1	0	55	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	36	31	20	1	1	126	4.1	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



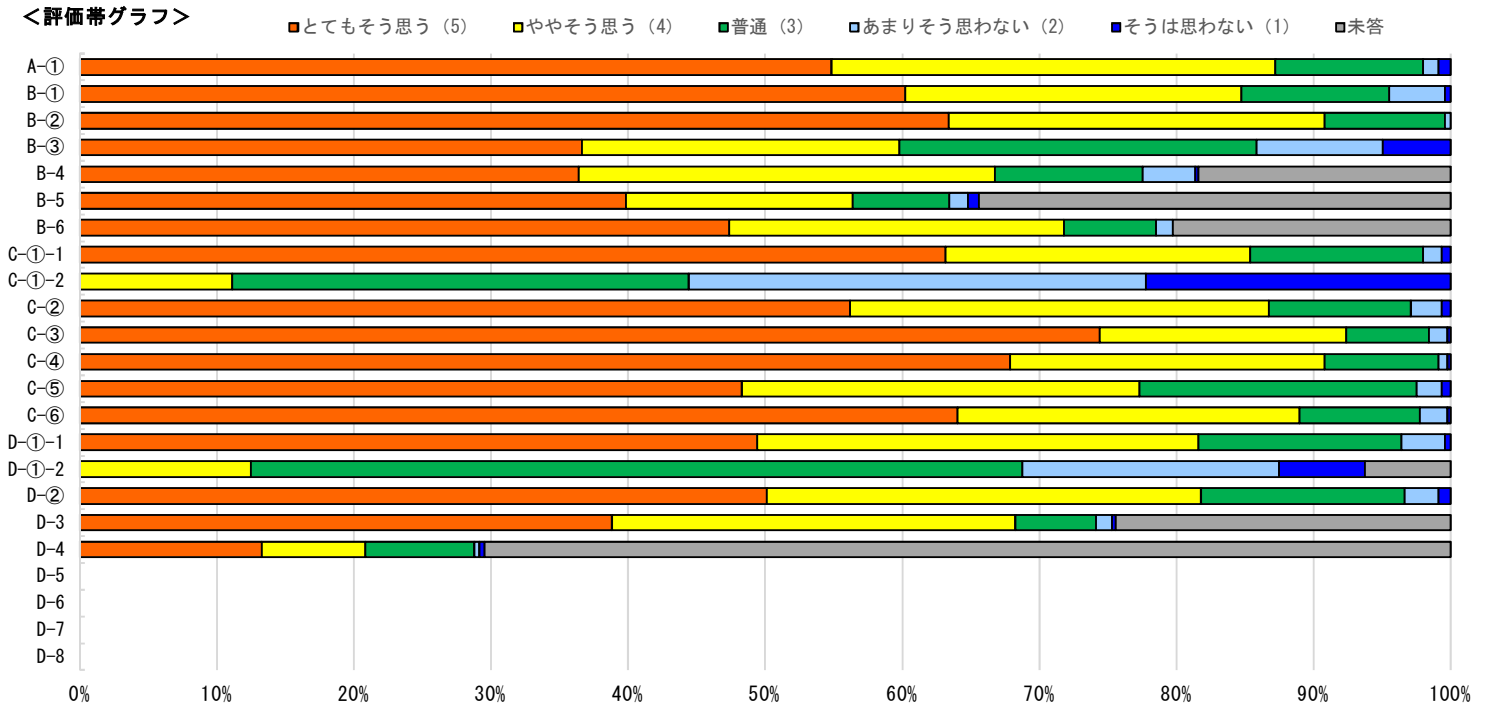
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学科（養）

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	307	---	---
20生	78	---	---
19生	52	---	---
18生以前	4	---	---
その他	4	---	---
不明	0	---	---
合計	445	1,590	28%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	244	144	48	5	4	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	268	109	48	18	2	0	4.4	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	282	122	39	2	0	0	4.5	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	163	103	116	41	22	0	3.8	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	162	135	48	17	1	82	4.2	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	147	61	26	5	3	127	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	161	83	23	4	0	69	4.5	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	281	99	56	6	3	0	4.5	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 1	少し早い 3	少し遅い 3	遅すぎる 2	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	250	136	46	10	3	0	4.4	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	331	80	27	6	1	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	302	102	37	3	1	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	215	129	90	8	3	0	4.2	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	285	111	39	9	1	0	4.5	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	220	143	66	14	2	0	4.3	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 2	少し高い 9	少し低い 3	低すぎる 1	未答 1		
D-② この授業に大変興味を持てた。	223	141	66	11	4	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	132	100	20	4	1	83	4.4	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	35	20	21	1	1	186	4.1	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



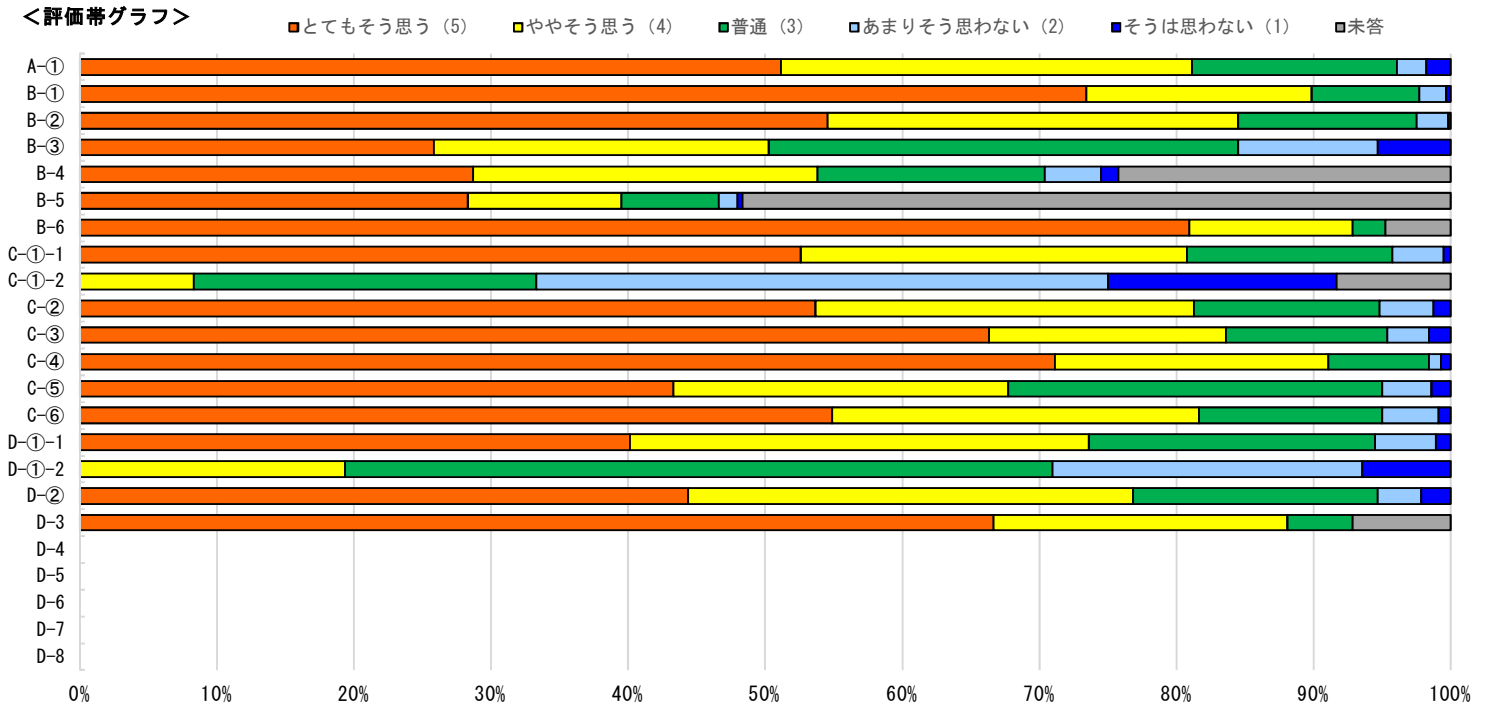
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	国際日本学科

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	255	---	---
20生	222	---	---
19生	80	---	---
18生以前	4	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	561	1,468	38%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	287	168	84	12	10	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	412	92	44	11	2	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	306	168	73	13	1	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	145	137	192	57	30	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	161	141	93	23	7	136	4.0	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	147	58	37	7	2	268	4.4	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	34	5	1	0	0	2	4.8	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	295	158	84	21	3	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 2	少し早い 6	少し遅い 10	遅すぎる 4	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	301	155	76	22	7	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	372	97	66	17	9	0	4.4	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	399	112	41	5	4	0	4.6	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	243	137	153	20	8	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	308	150	75	23	5	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	225	188	117	25	6	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 6	少し高い 16	少し低い 7	低すぎる 2	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	249	182	100	18	12	0	4.1	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	28	9	2	0	0	3	4.7	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



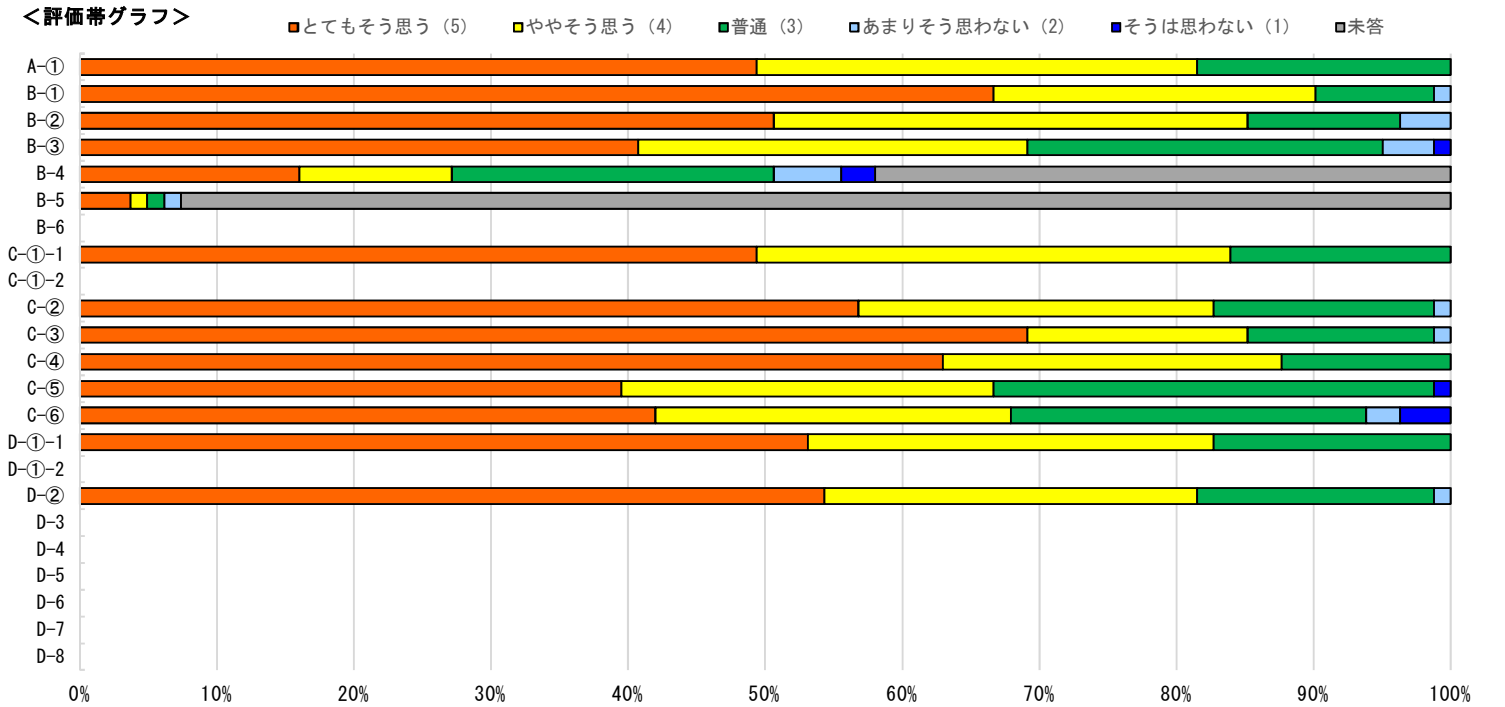
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	世界教養学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	43	---	---
20生	25	---	---
19生	13	---	---
18生以前	0	---	---
その他	0	---	---
不明	0	---	---
合計	81	346	23%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	40	26	15	0	0	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	54	19	7	1	0	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	41	28	9	3	0	0	4.3	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	33	23	21	3	1	0	4.0	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	13	9	19	4	2	34	3.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	3	1	1	1	0	75	4.0	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	40	28	13	0	0	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 0	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	46	21	13	1	0	0	4.4	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	56	13	11	1	0	0	4.5	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	51	20	10	0	0	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	32	22	26	0	1	0	4.0	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	34	21	21	2	3	0	4.0	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	43	24	14	0	0	0	4.4	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	44	22	14	1	0	0	4.3	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



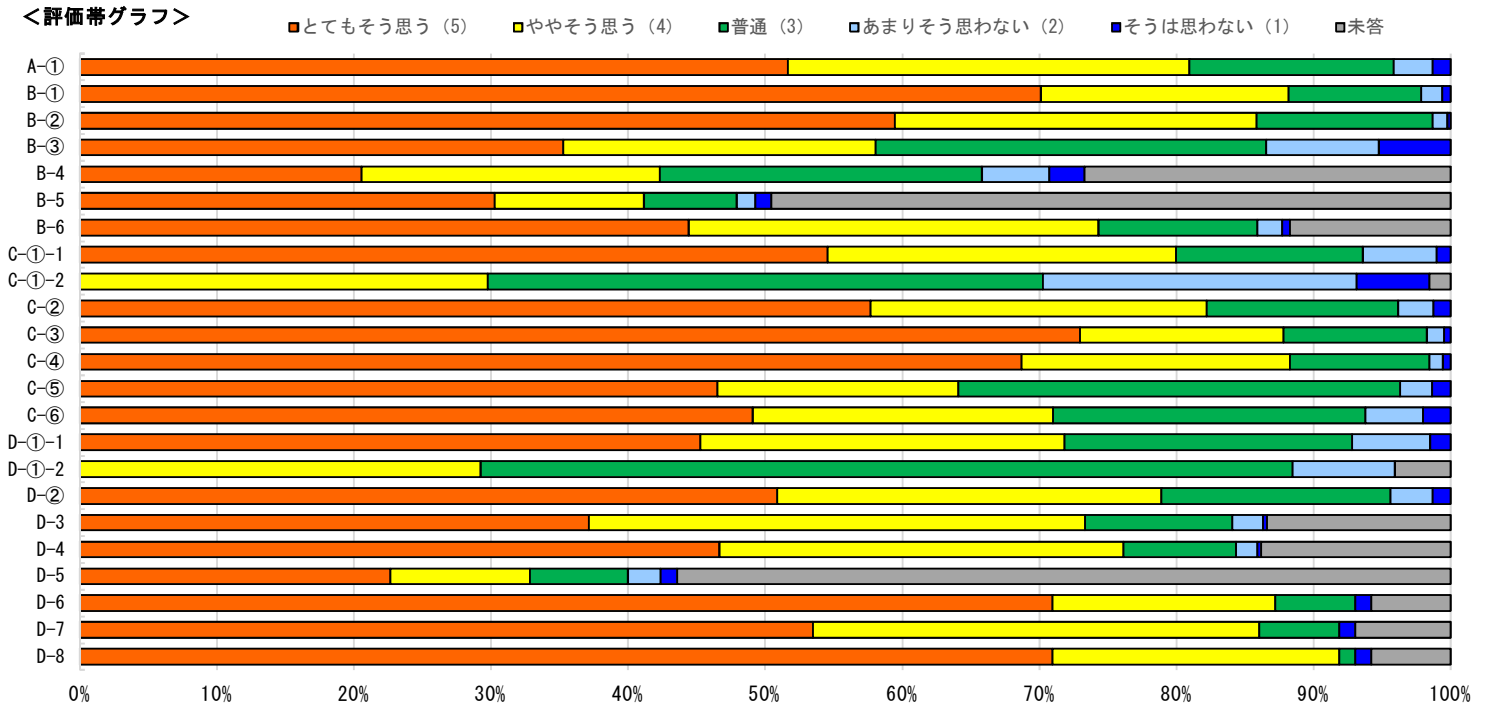
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	4 学部共通

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	782	---	---
20生	826	---	---
19生	359	---	---
18生以前	51	---	---
その他	26	---	---
不明	0	---	---
合計	2,044	8,124	25%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	1,056	598	305	58	27	0	4.3	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	1,433	369	198	31	13	0	4.6	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	1,215	540	262	22	5	0	4.4	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	721	466	582	168	107	0	3.7	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	403	426	460	96	50	523	3.7	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	593	213	132	27	23	970	4.3	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	318	214	83	13	4	84	4.3	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	1,115	519	279	110	21	0	4.3	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	1,179	501	286	52	26	0	4.3	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	1,491	304	214	25	10	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1,404	400	208	20	12	0	4.5	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	951	359	658	48	28	0	4.1	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	1,003	448	466	86	41	0	4.1	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	925	543	429	116	31	0	4.1	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	1,040	572	342	63	27	0	4.2	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	266	259	77	16	2	96	4.2	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	334	211	59	11	2	99	4.4	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	76	34	24	8	4	189	4.2	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	61	14	5	0	1	5	4.7	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	46	28	5	0	1	6	4.5	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	61	18	1	0	1	5	4.7	4.7



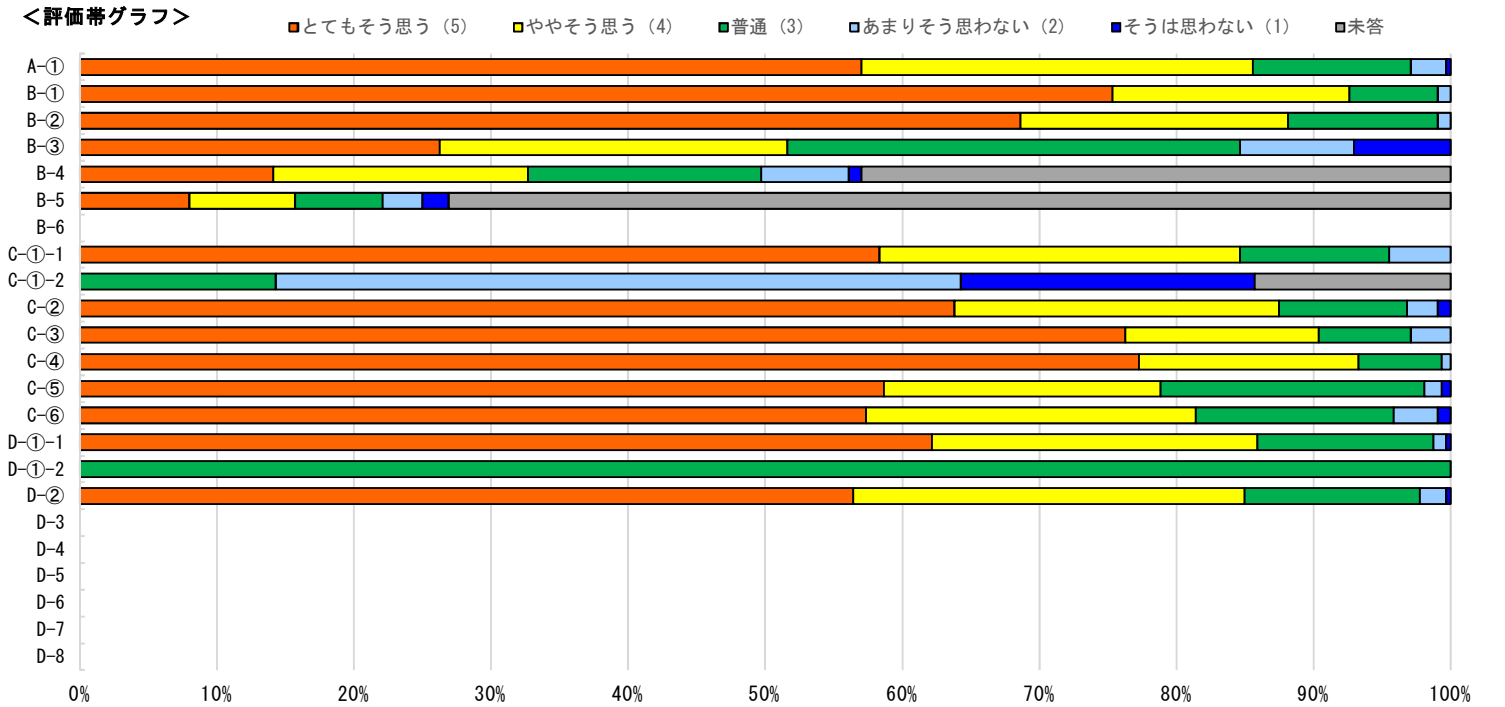
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	教職科目

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	48	---	---
20生	59	---	---
19生	164	---	---
18生以前	29	---	---
その他	12	---	---
不明	0	---	---
合計	312	1,149	27%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	178	89	36	8	1	0	4.4	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	235	54	20	3	0	0	4.7	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	214	61	34	3	0	0	4.6	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	82	79	103	26	22	0	3.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	44	58	53	20	3	134	3.7	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	25	24	20	9	6	228	3.6	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	182	82	34	14	0	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる 0	少し早い 2	少し遅い 7	遅すぎる 3	未答 2		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	199	74	29	7	3	0	4.5	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	238	44	21	9	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	241	50	19	2	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	183	63	60	4	2	0	4.3	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	179	75	45	10	3	0	4.3	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	194	74	40	3	1	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる 0	少し高い 4	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	176	89	40	6	1	0	4.4	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



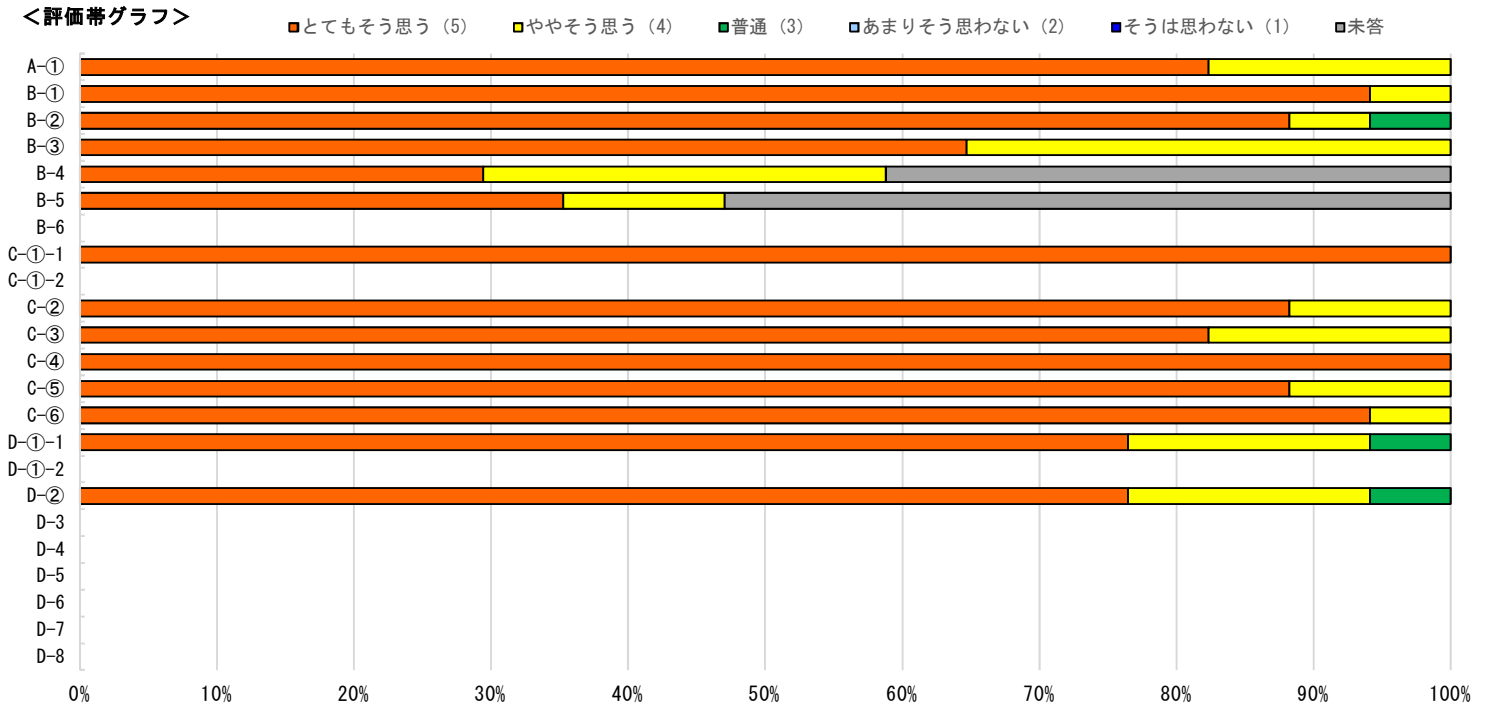
集計区分別評価結果

集計単位	学科
集計名称	大学院

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	6	---	---
20生	0	---	---
19生	0	---	---
18生以前	0	---	---
その他	11	---	---
不明	0	---	---
合計	17	55	31%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	14	3	0	0	0	0	4.8	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	16	1	0	0	0	0	4.9	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	15	1	1	0	0	0	4.8	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	11	6	0	0	0	0	4.6	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	5	5	0	0	0	7	4.5	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	6	2	0	0	0	9	4.8	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	17	0	0	0	0	0	5.0	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		早すぎる 0	少し早い 0	少し遅い 0	遅すぎる 0	未答 0		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	15	2	0	0	0	0	4.9	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	14	3	0	0	0	0	4.8	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	17	0	0	0	0	0	5.0	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	15	2	0	0	0	0	4.9	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	16	1	0	0	0	0	4.9	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	13	3	1	0	0	0	4.7	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わない場合		高すぎる 0	少し高い 0	少し低い 0	低すぎる 0	未答 0		
D-② この授業に大変興味を持てた。	13	3	1	0	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7



集計区分別評価結果

集計単位	学科 別科
集計名称	

入学年度	回答数	受講者数	回収率
21生	31	---	---
20生	12	---	---
19生	3	---	---
18生以前	4	---	---
その他	55	---	---
不明	0	---	---
合計	105	241	44%

質問別回答集計表（人数と平均値）

	5 とても そう思う	4 やや そう思う	3 普通	2 あまりそう 思わない	1 そうは 思わない	未答	平均	全体平均
A-① この授業は、全体として満足であった。	74	19	10	2	0	0	4.6	4.3
B-① この授業には、休まず出席していた。	68	26	10	1	0	0	4.5	4.6
B-② この授業には、真剣な態度で受講した。	89	11	5	0	0	0	4.8	4.5
B-③ この授業の登録前または履修中に、シラバスを活用した。	64	26	10	2	3	0	4.4	3.6
B-4 この授業に関して予習、復習などを積極的に行なった。	68	27	4	1	1	4	4.6	4.0
B-5 この授業で指定された教科書、参考書等を十分に活用した。	71	8	1	0	1	24	4.8	4.4
B-6 この授業により、次の取り組みのいずれか1つ以上について積極的に行うようになった。 ・聞く・話す・読む・書く	0	0	0	0	0	0	-	4.4
C-①-1 授業の進み具合は適切であった。	60	30	14	1	0	0	4.4	4.3
C-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		早すぎる	少し早い	少し遅い	遅すぎる	未答		
C-② 教員はわかり易く説明していた。	69	27	8	1	0	0	4.6	4.3
C-③ 授業の開始時間、終了時間はきちんと守られていた。	76	18	10	1	0	0	4.6	4.6
C-④ 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	80	22	3	0	0	0	4.7	4.6
C-⑤ 授業中の私語には適切な処置がとられていた。	81	16	7	0	1	0	4.7	4.2
C-⑥ 学生が積極的に授業に参加できるよう配慮されていた。	81	13	8	1	2	0	4.6	4.3
D-①-1 授業のレベルは、自分にとって適切であった。	71	21	9	4	0	0	4.5	4.2
D-①-2 そうは思わない、あまりそう思わないの場合		高すぎる	少し高い	少し低い	低すぎる	未答		
D-② この授業に大変興味を持てた。	82	14	8	1	0	0	4.7	4.2
D-3 この授業を履修して、目標とされている外国語の能力（話す能力、書く能力、聴く能力、読む能力のいずれか、あるいはその組合せ）を伸ばすことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.3
D-4 この授業により、複言語またはエリアランゲージズで履修した言語の文化への興味を持つことができた。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-5 この授業では、S.A.（授業アシスタント）等による授業補助は、十分であった。	0	0	0	0	0	0	-	4.2
D-6 この授業は、将来、自分で健康や体力を保持・増進することに役立った。	0	0	0	0	0	0	-	4.7
D-7 この授業で、スポーツの運動技術が向上した。	0	0	0	0	0	0	-	4.5
D-8 この授業によって、スポーツや体を動かすことが好きになった。	0	0	0	0	0	0	-	4.7

